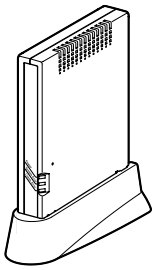
RICOH

Remote Communication Gate

Type N / L

使用説明書



1 RC Gateについて
2 設置と接続
3 RC Gateモニター
4 本機をRSセンターに照会・登録する
5 管理対象の画像I/O機器をRSセンターに照会・登録する
6 登録内容の詳細を参照・変更する
7 付録

ご使用の前に、本書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、本書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

はじめに

このたびは本製品をご利用いただき、ありがとうございます。
この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

株式会社リコー

商標

- MS®、Microsoft®、Windows®、Windows NT®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

* Windows® XPの製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows® XP Professional
Microsoft® Windows® XP Home Edition
* Windows® 2000の製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows® 2000 Server
Microsoft® Windows® 2000 Professional
* Windows Server™ 2003の製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition
Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server™ 2003 Web Edition
* Windows NT® 4.0の製品名は以下のとおりです。
Microsoft® Windows NT® Server 4.0
Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0

使用説明書の分冊構成

お使いになる目的に応じて、必要な使用説明書をお読みください。

❖ **安全上のご注意/セットアップガイド**
本機の設置方法と注意事項が記載されています。

❖ **使用説明書（本書）**
本機の設置、セットアップ、使用方法に関するすべての項目が記載されています。

補足

❒ カスタマーエンジニアが本機の設置・登録作業を行った場合は、本書に記載されている設置・登録作業を行う必要はありません。ただし、保守・運用作業を行う場合には本書をよくお読みください。

目次

使用説明書の分冊構成 1
この本の読み方 3
マークについて 3
略称について 3
安全上のご注意 4
表示について 4
表示の例 4
使用上のお願い 7

1. RC Gateについて

システム概要 9
常時接続方式 9
ダイヤルアップ方式 11
各部の名称とはたらき 12
上面・正面 12
背面 13
Remote Communication Gate Type N 13
Remote Communication Gate Type L 14
LANポートのインジケーター 14

2. 設置と接続

設置環境を確認する 15
電源コードを接続する 17
Type Lに電話回線を接続する 20
ファクス共有回線の場合 20
RC Gate専用回線の場合 21
本機のIPアドレス（LAN2ポート）を変更する 22
ネットワークケーブルを接続する 30
RC Gateを設置する 31
横置きにする 31
縦置きにする 31

3. RC Gateモニター

RC Gateモニターの動作環境 33
RC Gateモニターの起動と終了 34
RC Gateモニターを起動するには 34
メニューボタンについて 37
RC Gateモニターを終了するには 38
ウィザード画面の構成と操作方法 39
RC Gate・機器個別設定の画面構成と操作方法 40
一覧表形式画面の操作方法 42

4. 本機をRSセンターに照会・登録する

RC Gate登録ウィザードの流れ 43
RC Gate登録ウィザードの操作手順 44

5. 管理対象の画像I/O機器をRSセンターに照会・登録する

機器登録ウィザードの流れ 53
機器登録ウィザードの操作手順 54

6. 登録内容の詳細を参照・変更する

［RC Gate・機器個別設定］の各画面について 59
基本 61
日付・時刻 62
ネットワーク 63
メール 66
メール送信の確認 68
接続設定詳細 69
Type N（常時接続）の場合 69
Type L（ダイヤルアップ）の場合 70
機器共通管理 71
登録機器一覧 73
機器詳細 74
機器ファームウェア更新 76
RC Gate再起動 77
RC Gateシャットダウン 78
通信テストコール 79
機器確認依頼コール 80
通信ログ 81
サービスコール（障害情報） 82
システム状態 83
パスワード 84
アクセス許可 85
アクセスログ 86

7. 付録

こんなときには 87
エラーメッセージが表示された 87
エラーメッセージに示された障害が継続する場合 87
事業所の移転、管理対象機器の移動等 88
本機を返却する場合 88
エラーコード 88
初期値一覧 90
本機に搭載されているソフトウェアの著作権などに関する情報 91
仕様 92
電波障害について 93
索引 94

この本の読み方

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。冒頭にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。冒頭にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

※以上は、安全上のご注意についての説明です。

重要

誤って操作をすると、データ消失などの原因になることがあります。必ず、お読みください。

操作の前に

操作をする前に知っておいていただきたいこと、あらかじめ準備していただきたいことなどを説明しています。

補足

操作するときに気を付けることや、操作を誤ったときの対処方法などを説明しています。

制限

数値の制限や組み合わせできない機能、機能が使用できない状態を説明しています。

参照

参照先を示します。

[ ]

画面のキーや項目の名称を示します。

略称について

本書では、「Remote Communication Gate」を「RC Gate」と略して記載しています。

安全上のご注意

表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示の例

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
⃠の中に具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は、“分解禁止”を表します)

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
●の中に具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は、“アース線を必ず接続すること”を表します)

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠警告

- アース接続してください。アース接続がされないで、万一漏電した場合は、火災や感電の原因になります。アース接続がコンセントのアース端子にできない場合は、接地工事を電気工事業者に相談してください。
- アース接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因になります。
- Type Lの電話回線はアース接続してから接続してください。また、アース接続を外す前に電話回線を外してください。感電の原因になります。

- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になります。
- 延長コードの使用は避けてください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重い物を載せたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災や感電の原因になります。

- 機械の近くまたは内部で可燃性のスプレーや引火性溶剤などを使用しないでください。引火による火災や感電の原因になります。
- この機械の上に花瓶、植木鉢、コップ、水などの入った容器または金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災や感電の原因になります。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。

- 機械は電源コンセントにできるだけ近い位置に設置し、異常時に電源プラグを容易に外せるようにしてください。

- 本書で指定している部分以外のカバーやねじは外さないでください。機械内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。機械内部の点検・調整・修理はサービス実施店に依頼してください。
- この機械を改造しないでください。火災や感電の原因になります。

- 万一、煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常状態が見られる場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてサービス実施店に連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。
- 万一、金属、水、液体などの異物が機械内部に入った場合は、まず電源プラグをコンセントから抜いてサービス実施店に連絡してください。そのまま使用すると火災や感電の原因になります。

- 付属の電源コードは本機専用です。他の電源コードは使用しないでください。火災、感電、けがの原因になります。

- 必ず付属のACアダプターをご利用ください。付属以外のACアダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。

- 近くで落雷が発生しているとき、本機（Type L）に触らないでください。感電の原因になります。

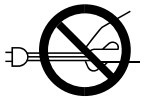
本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠注意

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災や感電の原因になります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。

- 機械を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

- 連休等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



- 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱらないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

- 電源プラグは年に 1 回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃してください。ほこりがたまると、火災の原因になります。

使用上のお願い

- 部品は、リコー指定の製品により安全性を評価しています。安全にご使用いただくため、リコー指定の交換部品をご使用ください。部品の交換はサービス実施店に相談してください。
- 温度の変化により、機械内部に結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、1 時間以上放置して環境になじませてからご使用ください。
- 本機内部の温度が上昇すると、故障の原因になります。物を置いたり、立て掛けたりして排気口や吸気口をふさがないようにしてください。
- 通気口などでは排気により暖かいと感じることがありますが、異常ではありません。
- クリップなどの異物が本機の中に入らないようにしてください。
- 日本国外へ移動された場合は、保守サービスの責任を負いかねますのでご了承ください。
- 安全法規制（電波規制や材料規制など）は各国異なります。これらの規制に違反して、本製品および消耗品等を諸外国に持ち込むと罰せられることがあります。

システム概要

この接続方式では、本機とRSセンターとの通信はHTTPS接続により行われます。この接続方式により、本機は相互認証機能を用いてRSセンターと通信可能な状態になります。この通信プロトコルにより安全性が保証されます。この接続方式の場合、RSセンターはHTTPSサーバーとして動作し、本機はHTTPSクライアントとして機能します。

お使いのインターネット環境により、システムの接続方式は「常時接続方式」または「ダイヤルアップ方式」となります。

常時接続方式

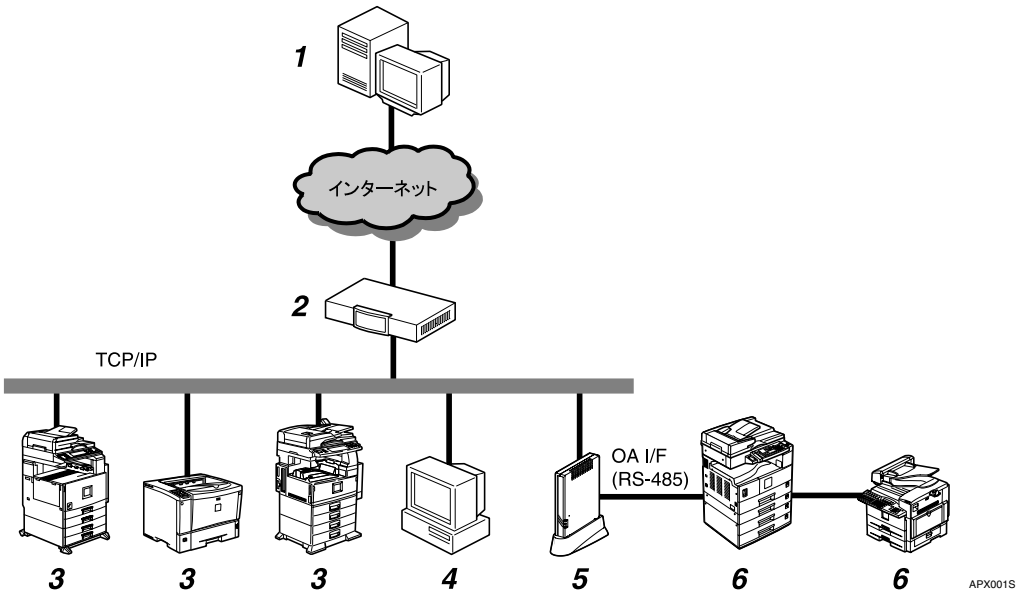
お使いのネットワークがインターネットに接続されている場合は、その環境を利用して本機とRSセンターとのデータのやり取りを行います。この接続方法を、ここでは「常時接続方式」といいます。

「常時接続方式」を使用する場合、以下の2点の条件がそろっている必要があります。

- お使いのネットワーク環境が外部のWebサイトにアクセス可能な設定がされていること。
- プロキシ認証を用いる場合、本機のアカウントとパスワードが利用可能になっていること。

重要

❒ お客様のネットワークからインターネットへ接続する方式によっては、本機とRS センターとの通信時に、通信料がかかることがあります。



1. RSセンター

各種サービスのための情報を集約するセンターです。

2. **プロキシサーバーおよびファイアウォール**

プロキシサーバーやファイアウォールを使用することができます。プロキシサーバーを使用する場合、「ベーシック認証」と「ダイジェスト認証」がサポートされ、自動的に認証決定が行われます。

3. **ネットワーク上の画像I/O機器**

管理対象機器の種類は、デジタル複合機、プリンターです。本機は最大100台の機器を管理できますが、管理される機器には、「6.ネットワーク上にない画像I/O機器」も含まれます。ただし、ネットワーク経由で機器情報を収集できない機種もありますので、対応機種については、弊社機器の保守サービス実施店へお問い合わせください。

4. **管理用PC**

RC Gateモニターを使って、本機の管理を行います。

5. **本機（Remote Communication Gate Type N）**

管理対象機器（画像I/O機器）の各種情報をRSセンターへ通報したり、RSセンターから管理対象機器の更新用ソフトウェアをダウンロードしたりと、管理対象機器とRSセンターの仲介役を果たします。

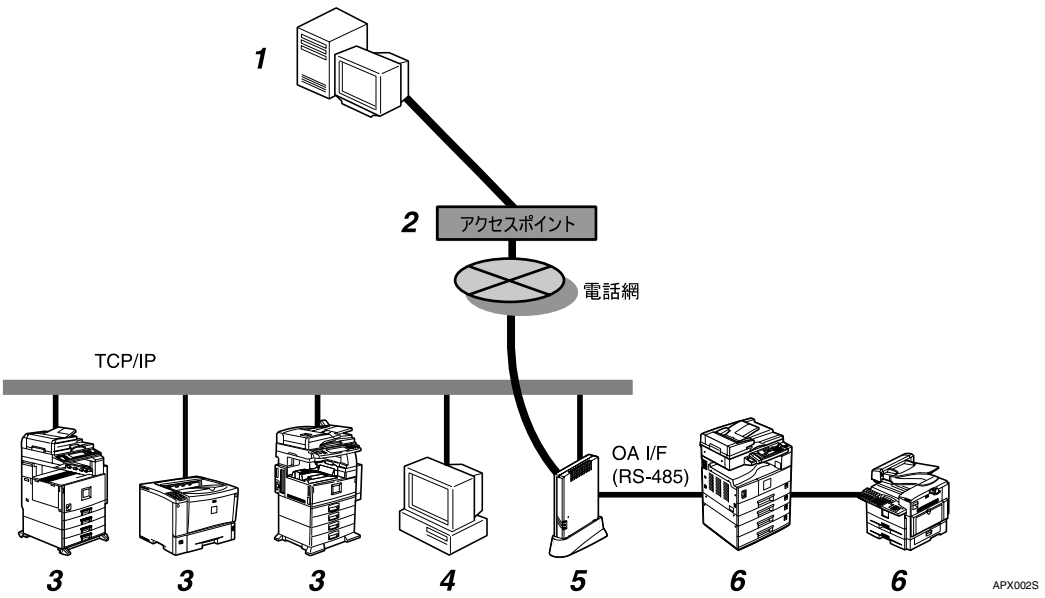
6. **ネットワーク上にない画像I/O機器**

ネットワークにつながっていないデジタル複合機、コピー機は、同梱のモジュラーコード（RS-485・黒色）を使って本機に直接接続することにより、管理対象機器になります。最大5台まで接続可能です。ただし、モジュラーコードによる接続ができない機種もありますので、対応機種については、弊社機器の保守サービス実施店へお問い合わせください。

なお接続はサービス実施店が行います。

ダイヤルアップ方式

インターネットに接続できない環境の場合は、Type Lに内蔵されているモデムボードを使って、本機とRSセンターとのデータのやり取りを行います。この接続方法を、ここでは「ダイヤルアップ方式」といいます。ダイヤルアップ方式には、既存のファクス機の電話回線を使う場合と、本機専用の電話回線を用意していただく場合の2つがあります。



1. **RSセンター**

各種サービスのための情報を集約するセンターです。

2. **アクセスポイント**

本機の設置地域によって、最も近いアクセスポイントが設定済みになっています。

3. **ネットワーク上の画像I/O機器**

管理対象機器の種類は、デジタル複合機、プリンターです。本機は最大100台の機器を管理できますが、管理される機器には、「6.ネットワーク上にない画像I/O機器」も含まれます。ただし、ネットワーク経由で機器情報を収集できない機種もありますので、対応機種については、弊社機器の保守サービス実施店へお問い合わせください。

4. **管理用PC**

RC Gateモニターを使って、本機の管理を行います。

5. **本機 (Remote Communication Gate Type L)**

管理対象機器（画像I/O機器）の各種情報をRSセンターへ通報し、管理対象機器とRSセンターの仲介役を果たします。RS センターとの通信には、本体に内蔵されたモデムボードを使います。

6. **ネットワーク上にない画像I/O機器**

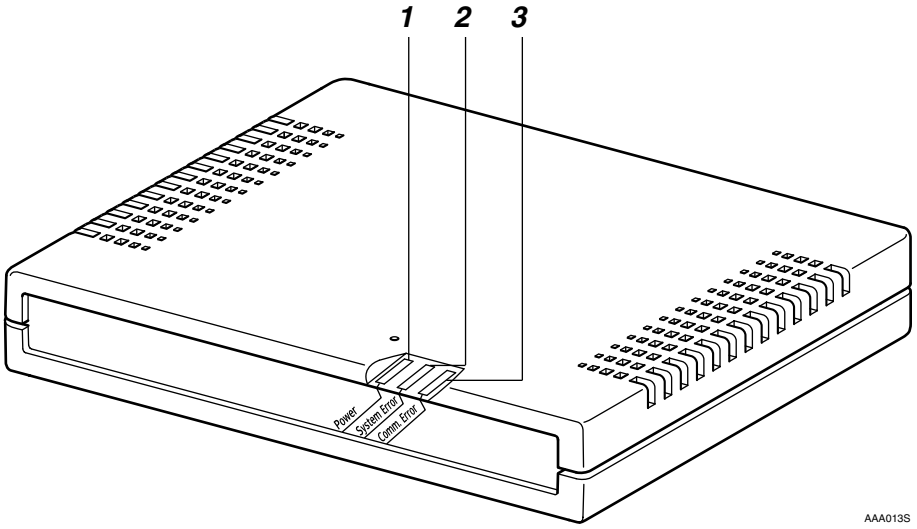
ネットワークにつながっていないデジタル複合機、コピー機は、同梱のモジュラーコード（RS-485・黒色）を使って本機に直接接続することにより、管理対象機器になります。最大5台まで接続可能です。ただし、モジュラーコードによる接続ができない機種もありますので、対応機種については、弊社機器の保守サービス実施店へお問い合わせください。

なお接続はサービス実施店が行います。

各部の名称とはたらき

1

上面・正面



1. Power

通電時に、緑色に点灯します。

2. System Error

正常起動時に OFF されます。システムにエラーが発生した場合は、赤色に点灯します。その場合、弊社機器の保守サービス実施店へお問い合わせください。

3. Comm.Error

RS センターとの通信状態が正常のときに OFF されます。RSセンターとの通信に失敗すると、オレンジ色に点灯します。その場合、ＬＡＮケーブルが正しく接続されているか確認してください。次に電源を切ってから、再度電源を入れてください。それでもエラーが発生する場合は、サービス実施店に連絡してください。

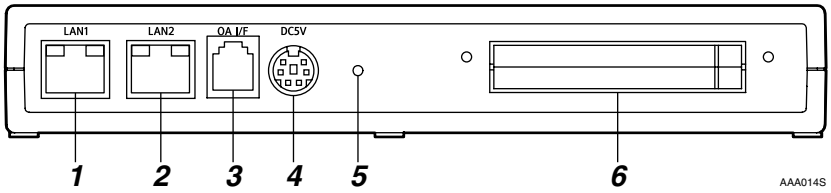
補足

❒ 再起動後、本機が起動すると、しばらくの間LEDランプが点滅します。

❒ エラーによりシステムが停止中のときは、LED ランプの赤色とオレンジ色が交互に高速に点滅したままの状態になります。その場合は、サービス実施店へお問い合わせください。

背面

Remote Communication Gate Type N



1. LAN1ポート

メンテナンス用のネットワーク（Ethernet）ポートです。工場出荷時のネットワークポートのＩＰアドレスは、192.168.10.1に設定されていますが、192.168.1.1 または 192.168.250.1 に変更することができます。

メンテナンス時にカスタマーエンジニアが使用するほか、設置管理者が最初に本機のIPアドレス（LAN2ポート）を設定するときに使用します。

2. LAN2ポート

本機をご利用のネットワーク（Ethernet）に接続するためのネットワーク（Ethernet）ポートです。IPアドレスのデフォルトは192.168.0.2ですが、変更可能です。

3. OA I/F

NIC（ネットワークインターフェースカード）を持たない画像I/O機器を接続するためのポートです。同梱のモジュラーコード（RS-485・黒色）を使って接続しますが、接続作業はサービス実施店が行います。

4. **電源コネクター**

電源コードを接続します。

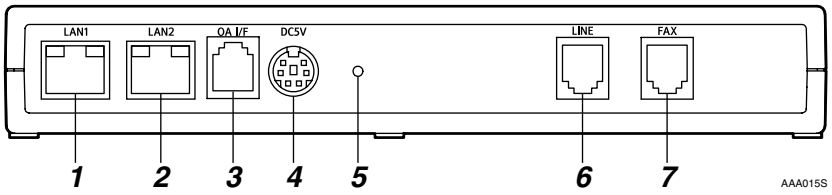
5. **ねじ穴**

電源コード固定金具をねじ止めするための穴です。

6. **無線LANカード用スロット（オプション）**

オプションの無線LANカードを装着します。

Remote Communication Gate Type L



1. LAN1ポート

メンテナンス用のネットワーク（Ethernet）ポートです。工場出荷時のネットワークポートのＩＰアドレスは、192.168.10.1に設定されていますが、192.168.1.1 または 192.168.250.1 に変更することができます。

メンテナンス時にカスタマーエンジニアが使用するほか、設置管理者が最初に本機のIPアドレス（LAN2ポート）を設定するときに使用します。

2. LAN2ポート

本機をご利用のネットワーク（Ethernet）に接続するためのネットワーク（Ethernet）ポートです。IPアドレスのデフォルトは192.168.0.2ですが、変更可能です。

3. OA I/F

NIC（ネットワークインターフェースカード）を持たない画像I/O機器を接続するためのポートです。同梱のモジュラーコード（RS-485・黒色）を使って接続しますが、接続作業はサービス実施店が行います。

4. 電源コネクター

電源コードを接続します。

5. ねじ穴

電源コード固定金具をねじ止めするための穴です。

6. LINE

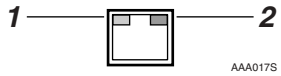
本機の内蔵モデムと電話回線を接続する端子です。

7. FAX

ファクス機に使用している電話回線を共用する場合に、ファクス機と接続する端子です。

LANポートのインジケーター

通電時、LAN1ポートおよびLAN2ポートの接続状態が確認できます。



1. オレンジ色のインジケーター

100Mbps のネットワークに接続している場合に点灯します。10Mbps のネットワークに接続している場合およびネットワークに接続していない場合は点灯しません。

2. 緑色のインジケーター

データ送受信時に点灯します。

2. 設置と接続

ここでは、本機を設置してネットワークに接続する方法について説明します。

設置環境を確認する

⚠警告

- 機械は電源コンセントにできるだけ近い位置に設置し、異常時に電源プラグを容易に外せるようにしてください。

⚠警告

- アース接続してください。アースが接続がされないで、万一漏電した場合は、火災や感電の原因になります。アース接続がコンセントのアース端子にできない場合は、設地工事を電気工事業者に相談してください。
- アース接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因になります。

⚠注意

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災や感電の原因になります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。

水平でがたつきがなく、振動のない場所を選んで設置してください。

縦置き・横置きともに、本機の前後・左右に1cm以上の空間を確保できる場所に設置してください。

重要

❒ 故障の原因になりますので、次のような場所に置かないでください。

- 直射日光の当たるところ
- エアコンや暖房機などの温風・ふく射熱が直接当たるところ
- ラジオ・テレビなど、他のエレクトロニクス機器に近いところ
- 高温、高湿、低温、低湿になるところ
- 加湿器の近く

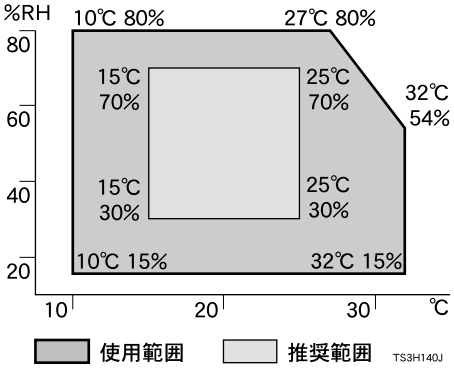
❒ 持ち出されたり壊されたりすることなどないように、安全な環境に本機を設置してください。

❒ 本機がサポートするのは、各メーカー純正の画像I/O機器のみです。ご契約のサービス内容によって、サポートされる機器が異なります。

❒ 本機と画像I/O機器は、ファイアウォールまたは、同等のインターネットセキュリティおよびウイルス保護機能によって保護された、責任を持って管理されているネットワークに接続してください。

❒ 本機を管理運用する管理者およびRSセンターや機器の登録を行う登録者の方は、責任を持って「セットアップガイド」および「本書」を必ずお読みください。また、適切に運用してくれる方を管理者や登録者にしてください。

温度や湿度が以下の図で示す範囲におさまる場所に設置してください。



重要

❒ 温度の変化により、機械内部に結露を生じることがあります。結露が生じた場合は、1時間以上放置して環境になじませてからご使用ください。

❒ 本機の電源は通常入れたままの状態でお使いください。

電源コードを接続する

本機に電源コードを接続する手順について説明します。

⚠警告

- 付属の電源コードは本機専用です。他の電源コードは使用しないでください。火災、感電、けがの原因になります。

⚠警告

- 必ず付属のACアダプターをご利用ください。付属以外のACアダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。また、本機以外には付属のACアダプターをご使用にならないでください。

⚠警告

- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になります。
- 延長コードの使用は避けてください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重い物を載せたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災や感電の原因になります。

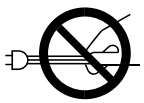
⚠警告

- アース接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因になります。

⚠警告

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。

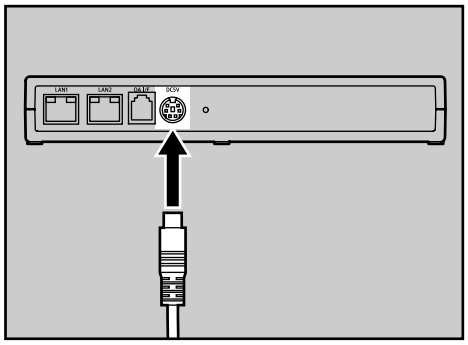
⚠注意



- 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱらないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

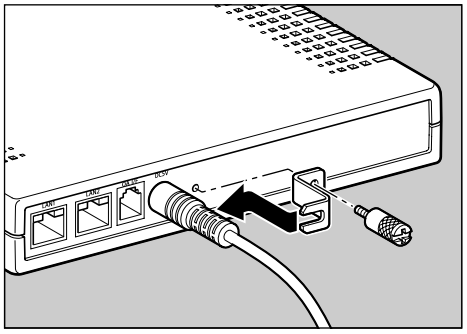
1 電源コードとACアダプターを接続します。

2 ACアダプターの電源端子を本機の電源コネクターに奥までしっかり差し込みます。



AAA001S

3 固定用金具で電源コードをはさみ、ねじで固定します。

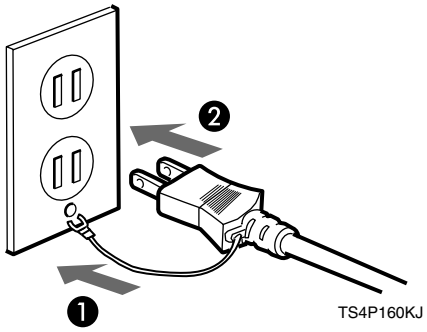


AAA002S

補足

❒ ねじをしめる際は、硬貨をお使いください。

4 アース接続を行い、電源プラグをコンセントに差し込みます。



TS4P160KJ

本機のアース端子は必ずアース対象物に接続してください。アース対象物は次のとおりです。

- コンセントのアース端子
- 接地工事（D種）を行っているアース線

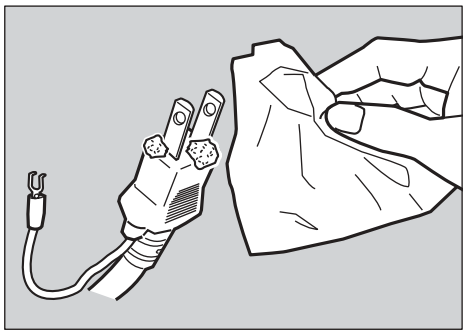
補足

❒ LEDランプは、電源投入時またセルフメンテナンス•モード実行時に点滅し、その後、オレンジ色と緑色のLEDランプが点灯したままになります。

❒ 電源を落とす方法は、P.78 「RC Gateシャットダウン」の項をご覧ください。

⚠注意

- 電源プラグは年に1回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃してください。ほこりがたまると、火災の原因になります。


ZGDH700J

Type Lに電話回線を接続する

同梱のモジュラーコード（白色）を使って、Remote Communication Gate Type Lと電話回線を接続する手順について説明します。

補足

❒ Remote Communication Gate Type Nの場合、モジュラーコード（白色）の接続は行いません。

2

⚠警告

- Type Lの電話回線はアース接続してから接続してください。また、アース接続を外す前に電話回線を外してください。感電の原因になります。

⚠警告

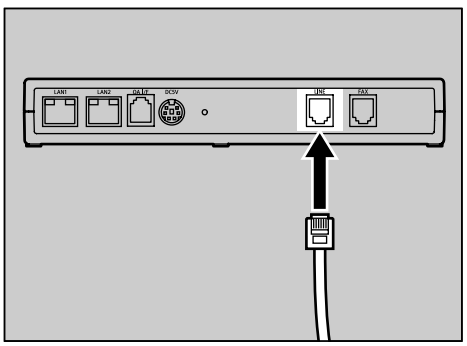
- 近くで落雷が発生しているとき、本機（Type L）に触らないでください。感電の原因になります。

ファクス共有回線の場合

お使いのファクス機用の電話回線を利用してRSセンターとデータ送受信を行うときの、モジュラーコード（白色）の接続手順です。

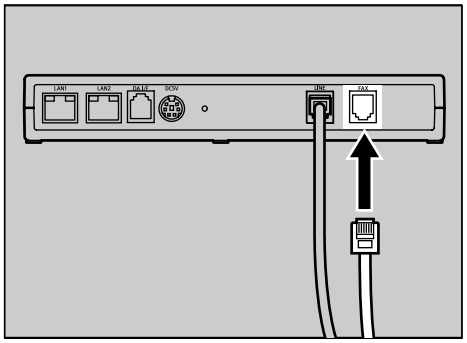
1 ファクス機のLINE端子から、電話回線ケーブルを取り外します。

2 取り外した電話回線ケーブルを、本機のLINE端子に接続します。



AAA007S

3 同梱のモジュラーコード（白色）の片方の端子を、本機のFAX端子に接続します。



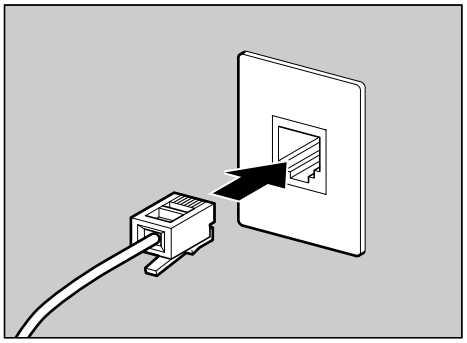
AAA316S

4 モジュラーコード（白色）のもう片方を、ファクス機のLINE端子に接続します。

RC Gate専用回線の場合

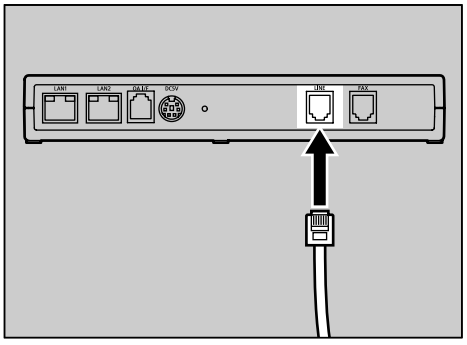
電話回線を本機専用に用意したときの、モジュラーコード（白色）の接続手順です。

1 本機専用回線のモジュラージャックに、同梱のモジュラーコード（白色）を差し込みます。



AAA005S

2 モジュラーコード（白色）のもう片方を、本機のLINE端子に差し込みます。



AAA007S

補足

❒ FAX端子は使用しません。

本機のIPアドレス（LAN2ポート）を変更する

本機のIPアドレス（LAN2ポート）は192.168.0.2、サブネットマスクは255.255.255.0として、工場出荷時に設定されています。本機のIPアドレスとして192.168.0.2を利用できない場合は、LAN1ポート（メンテナンス用）を利用して本機のIPアドレスを変更します。

操作の前に

お使いのOSがWindows 2000/XP、Windows Server 2003、またはWindows NT4.0の場合、本機を管理する際はAdoministratorグループの一員としてログインしてください。

本機のIPアドレスとして192.168.0.2を割り当てられる場合は、本項の作業を行う必要はありません。

また、無線LAN（オプション）を利用する場合は、IPアドレスの如何にかかわらず、無線LANの設定が必要になりますので、本項の作業を行ってください。

❖ 本項の作業が必要なケース

- お使いのサブネットが、192.168.0.XXX以外である。
- サブネットは192.168.0.XXXだが、192.168.0.2がすでに使われており、本機に割り当てることができない。
- サブネットは192.168.0.xxxだが、IPアドレスがDHCPサーバーによって動的に割り当てられる。
- 本機を無線LANで運用する。

重要

❒ LAN1ポート（メンテナンス用）のIPアドレス192.168.10.1が利用できない環境の場合（お使いのサブネットが192.168.10.XXXで、192.168.10.1がすでに使われているなどの場合）は、サービス実施店にご相談ください。

❒ 本機とネットワークは、同梱のネットワークケーブルで接続してください。同梱品をご利用にならない場合は、10BASE-T または 100BASE-TX ネットワークケーブルを使って接続します。なお、100BASE-TXネットワークケーブルでネットワークに接続する場合は、カテゴリー5の製品を使用してください。

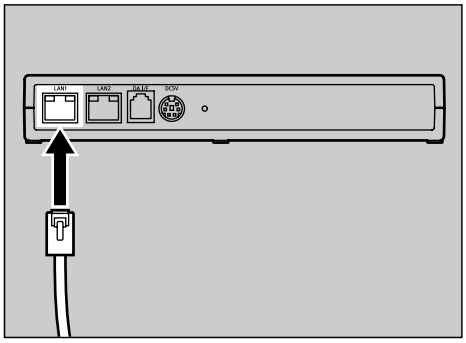
❒ ハブ（Hub）などのネットワーク機器に空きポートがない場合や、無線LANのみで有線ネットワークの環境がない場合、設定用のPCと本機のセグメントが異なる場合は、市販のクロスネットワークケーブルで本機とPCを直接つないで、⇒ P.23手順3以降を行ってください。

ここでは、お使いのネットワークに接続されているPCを使って、本機のLAN2ポートのIPアドレスを変更する方法を説明します。なお、PCには、P.33 「RC Gateモニターの動作環境」のWebブラウザーがインストールされている必要があります。

補足

❒ 本書は、DOS/V機、Windows 2000、Internet Explorer 6.0を使った画面および説明文になっています。適宜、お使いの環境に合わせて読み替えてください。

1 LAN1ポートに同梱のネットワークケーブルを接続します。



2 ケーブルのもう一方のコネクターを、ハブ（Hub）などのネットワーク機器に接続します。

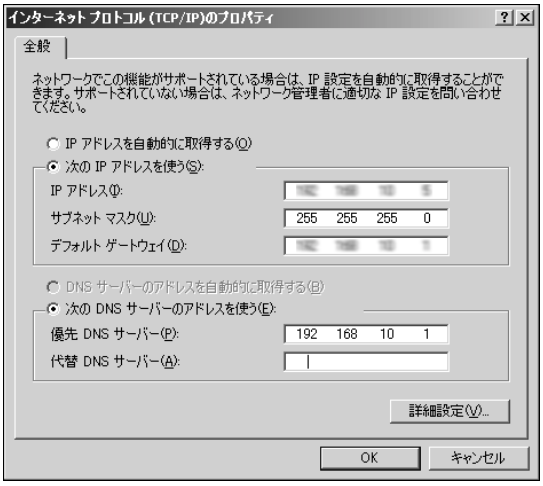
3 PCの現在のIPアドレス等のネットワーク設定情報をメモします。

補足

❒ 次の作業でPCのIPアドレスを一時的に変更します。作業完了時にPCのネットワーク設定を元に戻すために必要なメモをとってください。

❒ お使いのOSがWindows 2000/XPの場合、IPアドレスの追加設定を行うことができます。メモの必要はありません。

4 PCのIPアドレスを192.168.10.X（Xは2～254の任意の値）、サブネットマスクを255.255.255.0に設定します。



補足

❒ 画面の内容は、お使いのOSにより異なります。

❒ Windows 2000の場合、IPアドレスの追加設定を行うには、［詳細設定］タブをクリックし、続いて［追加］ボタンをクリックします。

❒ Windows XPの場合、IPアドレスの追加設定を行うには、［代替の構成］タブをクリックします。

5 画面の指示に従ってください。

PCのIPアドレスが設定した192.168.10.Xになります。

6 PCのWebブラウザーを起動します。

7 WebブラウザーのURL欄に「https://192.168.10.1/index.html」を入力します。

SSL証明書の警告画面が表示されます。

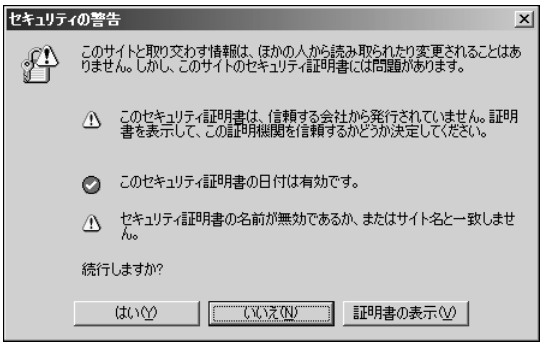
補足

❒ SSL証明書の警告画面は、お使いのWebブラウザーにより異なります。

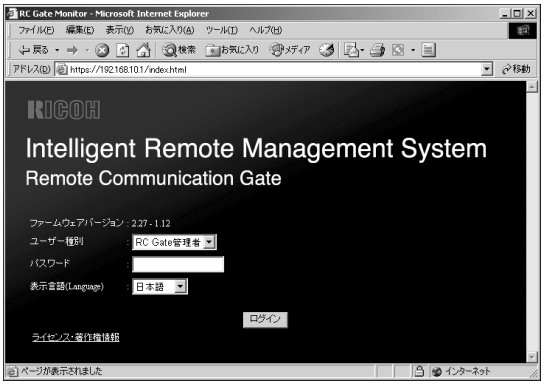
8 発行者がRicoh Remote Service CAであることを確認し、条項の内容に合意します。

補足

❒ Internet Explorer 6.0をお使いの場合、［はい］ボタンをクリックします。



本機のRC Gateモニターへのログイン画面が表示されます。



補足

❒ RC Gateモニターは、本機および管理対象機器の登録や設定、設定内容の参照を行うためのソフトウェアで、本機に内蔵されています。PCにインストールする必要はありません。RC Gateモニターを起動するには、Webブラウザーを使って、「https://本機のLAN1ポートまたはLAN2ポートのIPアドレス/index.html」にアクセスします。

❒「192.168.10.1」は、本機のLAN1ポートの工場出荷時のIPアドレス（デフォルト）です。

9 ［表示言語（Language)］欄が「日本語」になっていることを確認し、［ユーザー種別］欄から「RC Gate登録者」、［パスワード］欄にRC Gate登録者用のパスワードを入力し、［ログイン］ボタンをクリックします。

参照

工場出荷時のパスワードについては、「セットアップガイド」を参照してください。

重要

❒ 工場出荷時のパスワードをそのままご使用にならないでください。また変更したパスワードを決して忘れないようにしてください。詳細については、P.84「パスワード」を参照してください。

補足

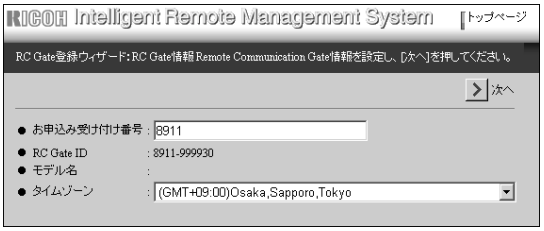
❒ 文字はすべて半角で入力してください（以下、入力時は同様）。

❒ 入力したパスワードに誤りがある場合は、再度ログイン画面が表示されます。［ユーザー種別］欄が「RC Gate登録者」になっていることを確認して、正しいパスワードを入力してください。

RC Gate登録者向けのトップページが表示されます。

10 ［RC Gate登録ウィザード］ボタンをクリックします。

［RC Gate登録ウィザード：RC Gate情報］画面が表示されます。

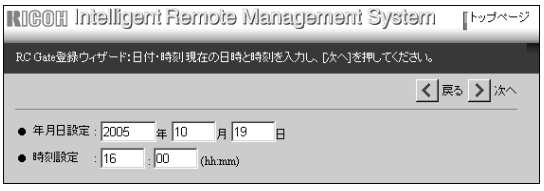


11 ［お申込み受け付け番号］を入力します。［タイムゾーン］に「(GMT+09:00)Osaka,Sappporo, Tokyo」と表示されているのを確認し、［次へ］ボタンをク リックします。

補足

❒ ［お申込み受け付け番号］は、お使いのRC GateをRSセンターが識別するためのものです。必ず入力してください。

［RC Gate登録ウィザード: 日付・時刻］画面が表示されます。



参照

詳細は、⇒ P.44 「RC Gate登録ウィザードの操作手順」の手順**3**「お申込み受け付け番号」を参照してください。

⓬［年月日設定］と［時刻設定］を設定し、［次へ］ボタンをクリックしてください。

［RC Gate登録ウィザード：ネットワーク設定確認］画面が表示されます。

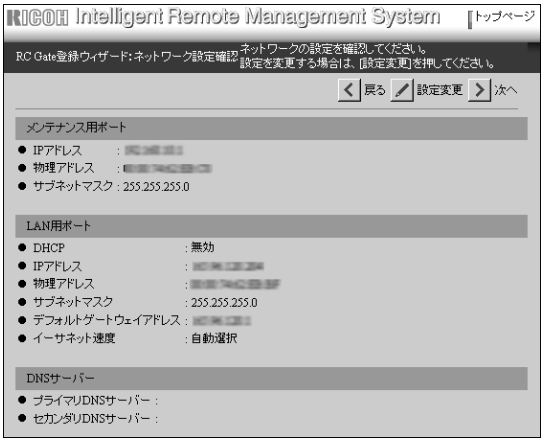
重要

❒ 日付と時間は定期的にチェックし、必要であれば正しい日時に修正してください。

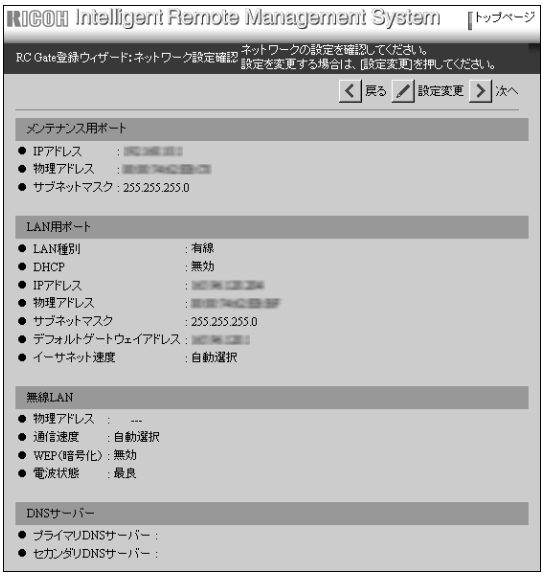
参照

P.59 「登録内容の詳細を参照・変更する」

- Type N（オプションなし）またはType L



- 無線LANカード（オプション）装着時



⓭［設定変更］ボタンをクリックします。

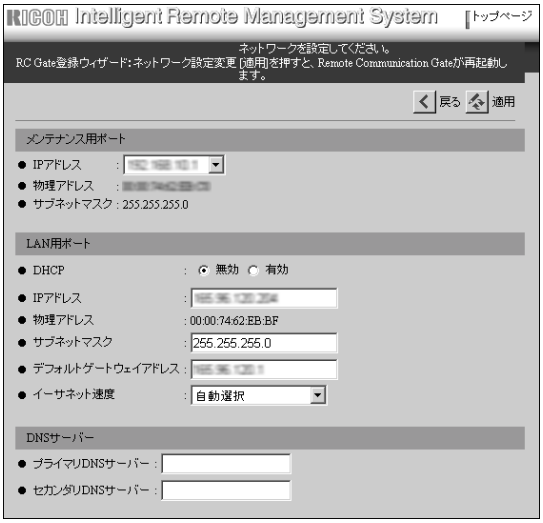
補足

❒［設定変更］ボタンの代わりに［戻る］ボタンをクリックすると、［RC Gate登録ウィザード：日付・時刻］画面に戻ります。

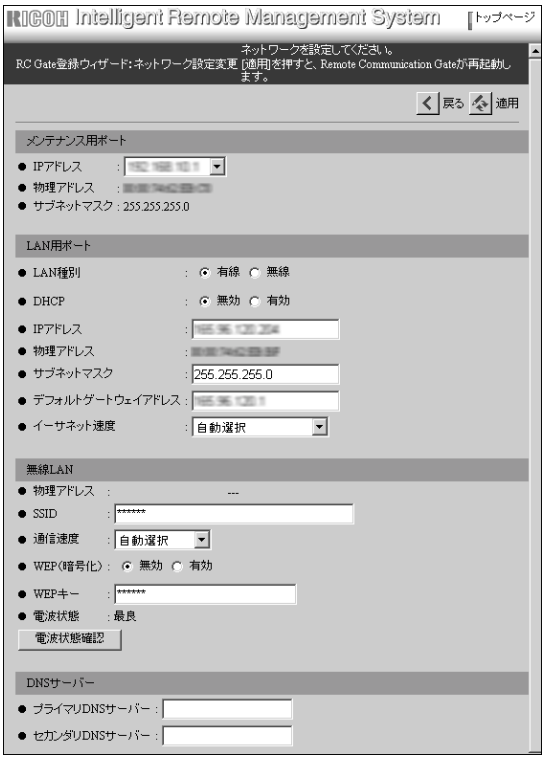
❒［設定変更］ボタンの代わりに［次へ］ボタンをクリックすると、［メール設定］画面へ移行して、IPアドレスの設定が行えません。ここでは［次へ］ボタンはクリックしないでください。

［RC Gate登録ウィザード：ネットワーク設定変更］画面が表示されます。

- Type N（オプションなし）またはType L



- 無線LANカード（オプション）装着時



14 「LAN用ポート」グループ内、「DNS サーバー」グループ内、および「無線LAN」グループ内（オプション装着時のみ）の各項目を入力します。

補足

- DHCP環境の場合は、［DHCP］欄の「有効」を選択し、［IPアドレス］欄、［サブネットマスク］欄、［デフォルトゲートウェイ］欄には入力しないでください。IPアドレス等はDHCPサーバーから自動取得します。DHCPサーバーで本機のIPアドレスを静的に割り振った場合も、同様です。
- DHCPが「無効」の場合は、［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［デフォルトゲートウェイ］の各欄に、8ビット区切りの10進数「XXX.XXX.XXX.XXX」の形式で入力します。
- プロキシサーバーまたはSMTP サーバーを名前で指定する（名前解決を行う）場合、「DNS サーバー」グループの入力が必要になります（プロキシサーバー、SMTP サーバー の指定はここでは行いません）。［プライマリDNSサーバー］と［セカンダリDNSサーバー］にx.x.x.xといった形式で適切な数値を入力してください（“x”は0～255の範囲内の整数）。
- 無線LANカード（オプション）装着時は、LAN種別で「有線」か「無線」かを選択します。「無線」を選択したときは、［SSID］から［WEPキー］までの各項目も入力します。
- 「メンテナンス用ポート」グループ内の各項目は変更しないでください。

参照

各項目の内容については、⇒ P.63 「ネットワーク」を参照してください。

15 ［適用］ボタンをクリックします。

補足

- ［適用］ボタンの代わりに［戻る］ボタンをクリックすると、設定変更せずに［RC Gate登録ウィザード：ネットワーク設定確認］画面に戻ります。

本機の再起動を行うか確認のダイアログが表示されます。

16 ［OK］ボタンをクリックします。

本機の再起動が行われます。

補足

- この作業には、数分かかります。ネットワーク環境によっては、それ以上かかる場合もあります。

本機前面のすべてのインジケーターがしばらく点滅します。再起動が完了すると、緑色とオレンジ色のインジケーターが点灯し、赤色のインジケーターが消灯します。

17 右上の［トップページ］をクリックします。

ログイン画面が表示されます。

18 Webブラウザーの［×］ボタンをクリックします。

Webブラウザーを終了します。

補足

- Webブラウザーを閉じる手順は、お使いのOSおよびWebブラウザーによって異なります。ご使用中の環境に合わせて操作してください。

19 **手順3のメモをもとに、PCのネットワーク設定を元に戻します。**

重要

❒ 本機のIPアドレスを変更した場合、本機と再接続するためには、この手順を必ず行ってください。

20 **本機の LAN1 ポートとハブなどのネットワーク機器をつないでいたネットワークケーブルを外します。**

DHCP環境で本機をご使用する場合

手順17を行った後、LAN2ポート経由でネットワークに接続することで、DHCPサーバーからIPアドレスを取得する形になります。本機の再起動が完了してから、PCをLAN1ポートに接続して手順8～11を実行してください。(手順12で) DHCPサーバーから取得したIPアドレスを控えてください。手順12で［トップページ］をクリックしてから、手順13に進んでください。

ネットワークケーブルを接続する

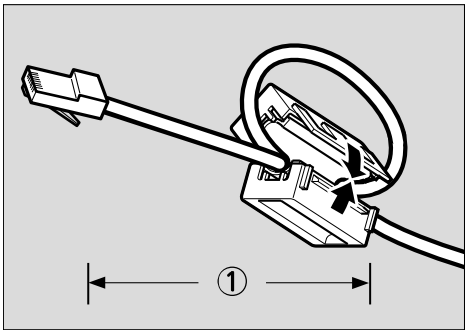
ここでは、本機とネットワークケーブルを接続する方法について説明します。

重要

❒ 本機とネットワークは、同梱のネットワークケーブルで接続してください。同梱品をご利用にならない場合は、10BASE-Tまたは100BASE-TXネットワークケーブルを使って接続します。なお、100BASE-TXネットワークケーブルでネットワークに接続する場合は、カテゴリー5の製品を使用してください。

❒ 工場出荷時、本機のLAN2ポートのIPアドレスは192.168.0.2、サブネットマスクは255.255.255.0に設定されています。192.168.0.2を本機のIPアドレスとして割り当てられない場合は、LAN2ポートのIPアドレスを変更してから、お使いのネットワークに接続してください。P.22「本機のIPアドレス（LAN2ポート）を変更する」

1 ケーブルをひねってコネクターから約10cm（①）の所に一重の輪を作り、同梱のフェライトコアを取り付けます。

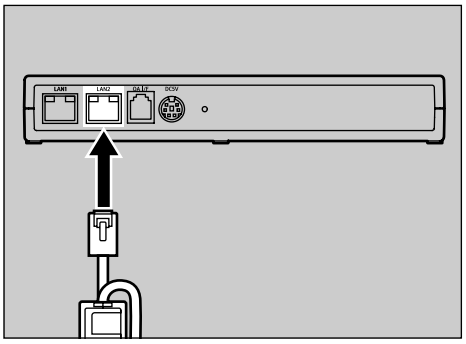


AAA306S

補足

❒ 開封時はフェライトコアのツメがロックされています。ツメを一度外してからネットワークケーブルに巻き付けてください。

2 フェライトコアを巻き付けた側のコネクターを、本機のLAN2ポートに接続します。



AAA009S

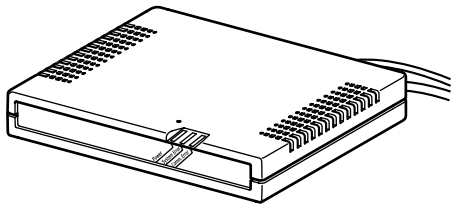
3 ケーブルのもう一方のコネクターを、ハブ（Hub）などのネットワーク機器に接続します。

RC Gateを設置する

P.15 「設置環境を確認する」の条件を満たす場合に本機を設置します。

横置きにする

本機を横置きにする場合、LEDが上になるように設置してください。

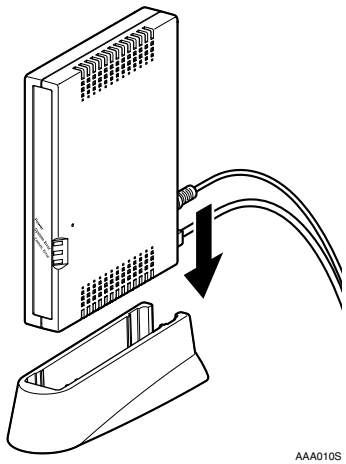


APX012S

縦置きにする

本機は縦置きにして省スペース化を図ることができます。

1 **同梱の縦置きスタンドに、LAN1ポートが下にくるようにして、本機を差し込みます。**



AAA010S

RC Gateモニターの動作環境

RC Gateモニターは、本機の登録や管理対象機器の登録を行ったり、それらの状態を閲覧するためのソフトウェアで、本機に内蔵されています。

同一ネットワーク上のPCのWebブラウザーを使って、本機のRC Gateモニターにアクセスすることができます。

❖ 対象OS

- 以下の推奨Webブラウザーをサポートするを使用ください。

❖ 推奨Webブラウザー

- Netscape Navigator 7.1以降
- Microsoft Internet Explorer 6.0以降

重要

❒ パスワードを入力する際、入力した文字がわからない機能(たとえば*などのダミー文字を表示)を持ったブラウザーを必ず使用してください。

制限

❒ 使用するWebブラウザーのバージョンが推奨ブラウザーより低い場合や、使用するブラウザーの設定で、「JavaScript」、「Cookieの使用許可」が有効になっていない場合、Webブラウザーでキャッシュを表示する設定になっている場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。

❒ 使用するWebブラウザーの文字のサイズの設定によっては、ページレイアウトが崩れる場合があります。文字のサイズは「中」以下に設定することをお勧めします。

❒ お使いになっている言語がWebブラウザーに対応していない場合、文字化けを起こす可能性があります。

RC Gateモニターの起動と終了

RC Gateモニターを起動するには

1 同一ネットワーク上のPCのWebブラウザーを起動します。

2 WebブラウザーのURL欄に、「https://xxx.xxx.xxx.xxx/index.html」（xxx.xxx.xxx.xxxは本機のLAN2ポートのIPアドレス）と入力します。

SSL証明書の警告画面が表示されます。

補足

❒ アクセスできない場合は、次の「プロキシの設定を行う（Internet Explorer 6.0の場合）」を参照して、プロキシの設定を行ってください。

プロキシの設定を行う（Internet Explorer 6.0の場合）

❶ Webブラウザーの［ツール］メニューから［インターネットオプション］を選択します。

［インターネットオプション］画面が表示されます。

❷ ［接続］タブをクリックします。

❸ ［LANの設定］ボタンをクリックします。

❹ ［詳細設定］ボタンをクリックします。

❺ ［例外］の［次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない］に、本機のLAN2ポート のIPアドレスを入力します。

❻ ［OK］ボタンを３回クリックします。

設定が反映されます。

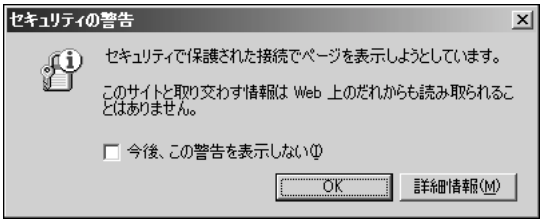
3 SSL証明書の警告画面に同意し、［はい］ボタンをクリックします。

補足

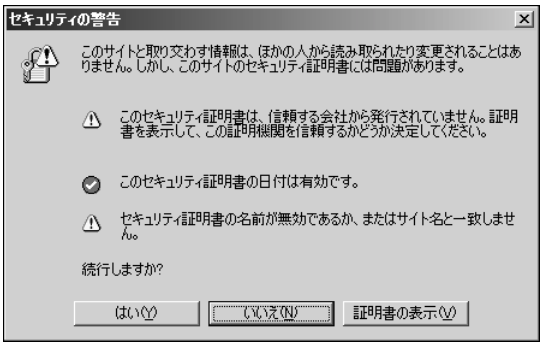
❒ SSL証明書の警告画面は、お使いのWebブラウザーにより異なります。

Internet Explorer 6.0をお使いの場合

❶［OK］をクリックします。



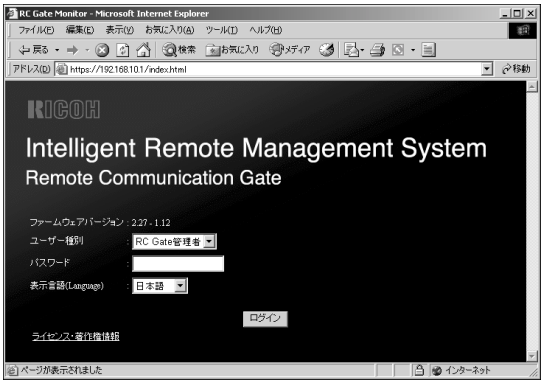
❷［はい］をクリックします。



SSL認証が行われます。SSL認証については、Webブラウザーを閉じたときなど、本機との接続を終了するまで有効です。

RC Gateモニターのログイン画面が表示されます。

4 ［表示言語（Language)］欄が「日本語」になっていることを確認し、［ユーザー種別］欄から、「RC Gate登録者」または「RC Gate管理者」のいずれかを選択し、対応するパスワードを［パスワード］欄に入力します。



補足

❒ 文字はすべて半角で入力してください（以下、入力は同様)。

❖ RC Gate登録者

本機の設置・登録を行うユーザーです。ウィザードを利用して、本機や管理対象機器の登録が行えます。

重要

❒ パスワードは変更してください。工場出荷時のパスワードでの運用は行わないでください。詳細については、P.84 「パスワード」を参照してください。

❖ RC Gate管理者

本機を管理するユーザーです。本機を運用するうえで必要な設定値の変更を行ったり、管理する画像I/O機器の情報を閲覧できます。

重要

❒ パスワードは変更してください。工場出荷時のパスワードでの運用は行わないでください。詳細については、P.84 「パスワード」を参照してください。

重要

❒ RC Gateモニターにアクセスすると、アクセスログが作成されます。詳細については、P.86「アクセスログ」を参照してください。

❒ セキュリティの観点から、5分のあいだに3回ログインに失敗すると、本機へのログインが禁止になります。1分後に再度ログインできます。

5 [ログイン] ボタンをクリックします。

選択したユーザーのトップページ（メニュー画面）が表示されます。

「RC Gate登録者」と「RC Gate管理者」では、操作可能な範囲が異なるため、RC Gateモニターのトップページも異なります。

❖ RC Gate登録者

RC Gate登録者でログインすると、[RC Gate登録ウィザード] ボタンと [RC Gate・機器個別設定] ボタンのあるトップページ（上）が表示されます。RC Gate登録ウィザードを終了した状態では、[機器登録ウィザード] ボタンと [RC Gate・機器個別設定] ボタンのあるトップページ（下）が表示されます。

❖ RC Gate管理者

RC Gate管理者でログインすると、[RC Gate・機器個別設定] ボタンのあるトップページが表示されます。

メニューボタンについて

❖ RC Gate登録ウィザード

本機をRSセンターに照会・登録するためのウィザードが起動します。
「RC Gate登録者」でログインしたときに表示されますが、一度ウィザードを完了すると、次回からは表示されません。

参照

[RC Gate登録ウィザード] の詳細は、⇒ P.43 「RC Gate登録ウィザードの流れ」を参照してください。

❖ 機器登録ウィザード

管理対象の画像I/O機器をRSセンターに照会・登録するためのウィザードが起動します。
「RC Gate登録者」でログインし、[RC Gate登録ウィザード] で登録が完了している場合に表示されます。

参照

[機器登録ウィザード] の詳細は、⇒ P.53 「機器登録ウィザードの流れ」を参照してください。

❖ RC Gate・機器個別設定

本機の設定内容を参照・変更したり、管理対象の画像I/O機器の情報を個別に参照することができます。管理対象の画像I/O機器のファームウェアの更新もこの中で行います。また、本機の再起動や通信ログなどの保守機能も有しています。
このボタンは、ログインしたユーザーが「RC Gate 登録者」「RC Gate 管理者」ともに表示されます。その後の詳細表示画面については、ログインするユーザー（RC Gate登録者またはRC Gate管理者）によって異なります。

参照

[RC Gate・機器個別設定] の詳細は、⇒ P.59 「登録内容の詳細を参照・変更する」を参照してください。

RC Gateモニターを終了するには

1 ヘッダーエリアの［トップページ］をクリックします。

参照

P.39 「ヘッダーエリア」
P.40 「ヘッダーエリア」

トップページが表示されます。

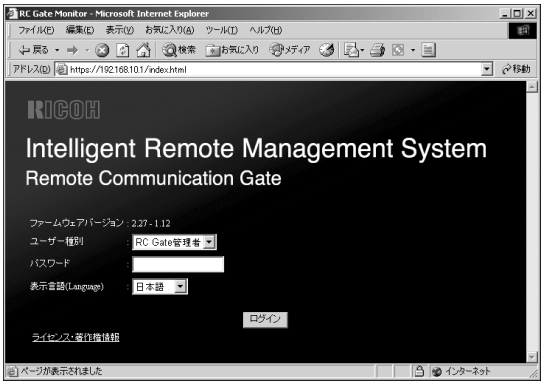
2 ［ログアウト］ボタンをクリックします。

補足

❒ ログインしているユーザーにより、トップページは異なります。

ログイン画面が表示されます。

3 Webブラウザーの［×］ボタンをクリックします。



重要

❒ ［×］ボタンをクリックする前に、手順2で［ログアウト］ボタンをクリックしたかどうか確認してください。

補足

❒ OSやWebブラウザーによって操作が異なります。環境に合わせて操作してください。

ウィザード画面の構成と操作方法

1. **ヘッダーエリア**

トップページへのリンクボタンがあり、このリンクボタンをクリックすることにより、どのページが開かれている状態であっても、トップページが表示できます。また、RICOHのホームページへのリンクボタンもあります。

補足

❒ ウィザードを終了する場合、[トップページ]をクリックします。

2. **画面タイトル**

画面名が表示されます。

3. **ガイダンス**

作業内容の説明が表示されます。

4. **コマンドボタン**

ボタンをクリックすることにより、次のような動作をします。

❖ **次へ**

次の画面へ進みます。

❖ **戻る**

通常は1つ前の画面に戻ります。RC Gate登録ウィザードでは、RSセンターへの照会や登録に失敗したときに[戻る]ボタンをクリックすると、[RC Gate登録ウィザード:RC Gate情報]画面に戻り、ウィザードをはじめからやり直せます。

❖ **設定変更**

設定変更画面に移動します。

❖ **適用**

変更した内容を反映させます。[適用]ボタンをクリックすると、再起動確認のダイアログが表示され、[OK]ボタンをクリックすると本機の再起動が行われ、変更内容が反映されます。

❖ **選択機器一覧**

[選択機器一覧]画面を別ウィンドウで表示します。

❖ **追加検索**

検索条件を変えて機器を検索するために、[機器登録ウィザード:検索範囲設定]画面に戻ります。

❖ **機器検索中止**

管理対象機器の検索を中止して、1 つ前の画面に戻ります。

❖ **機番エラー一覧**

[機番エラー一覧]画面を別ウィンドウで表示します。

❖ **最新の情報に更新**

[機番エラー一覧]画面を更新します。

❖ **閉じる**

別ウィンドウで表示した画面を閉じます。

❖ **終了**

ウィザードを終了し、トップページに戻ります。

5. **作業エリア**

左に項目名、右に項目内容が表示されます。

参照

一覧表形式画面の詳細についてはP.42 「一覧表形式画面の操作方法」を参照してください。

RC Gate・機器個別設定の画面構成と操作方法

APX005S

1. ヘッダーエリア

トップページへのリンクボタンが表示されます。このリンクボタンをクリックすると、設定画面のどこからでも［RC Gate・機器個別設定］を終了し、トップページへジャンプすることができます。

2. 画面タイトル

画面名が表示されます。

3. メニューエリア

ハイパーリンク付きのメニューが表示されます。最下層のメニューをクリックすることにより、作業エリアの内容が切り替わります。

❖ »

サブメニューがあります。サブメニューは閉じた状態です。クリックするとサブメニューが開きます。

❖ ⌄⌄

サブメニューがあります。サブメニューが開いている状態です。クリックするとサブメニューが閉じます。

❖ ›

最下層のメニューです。クリックすると、作業エリアに該当画面が表示されます。

4. ガイダンス

作業内容の説明が表示されます。

5. **コマンドボタン**

変更内容を反映したり、変更内容をキャンセルするためのボタンがあります。

❖ **適用**
変更内容を反映します。

❖ **元に戻す**
入力した値を破棄し、その画面を開いたときの値に戻します。

❖ **最新の情報に更新**
最新の設定情報を表示します（値を入力している最中にこのボタンをクリックすると、値 を入力する前の設定情報が表示された画面に戻ります)。

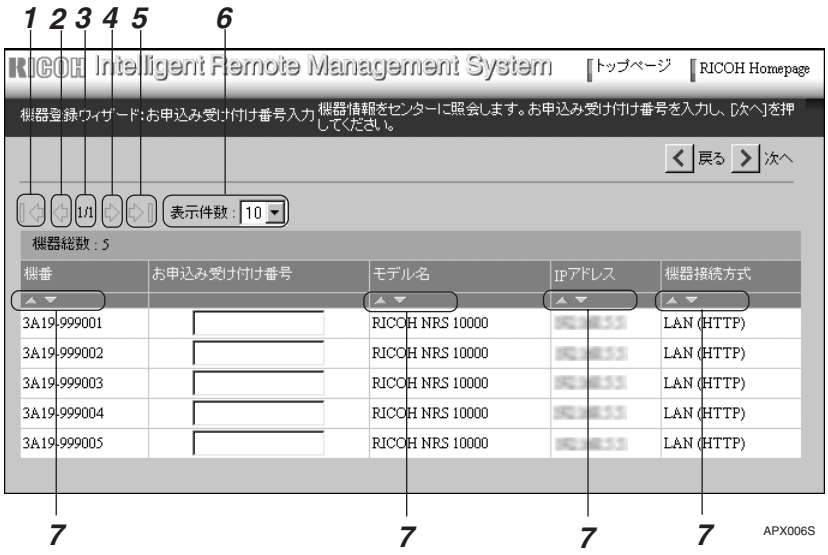
6. **作業エリア**

メニューエリアで選択された内容に応じた画面が表示されます。白地に立体表示されている場合は、変更可能な項目です。

参照

一覧表形式画面の詳細についてはP.42 「一覧表形式画面の操作方法」を参照してください。

一覧表形式画面の操作方法



1. ⟦⇦

先頭ページへ移動します。1ページしかない場合や、現在表示されているページが先頭ページの場合は、淡色表示となり、クリックできません。

2. ⇦

前ページへ移動します。1ページしかない場合や、現在表示されているページが先頭ページの場合は、淡色表示となり、クリックできません。

3. **現在の表示ページ/総ページ数**

現在表示されている画面のページと総ページ数を表示します。

4. ⇨

次ページへ移動します。1ページしかない場合や、現在表示されているページが最終ページの場合は、淡色表示となり、クリックできません。

5. ⇨⟧

最終ページへ移動します。1ページしかない場合や、現在表示されているページが最終ページの場合は、淡色表示となり、クリックできません。

6. **表示件数**

1ページに表示する件数を設定します。

7. △▽

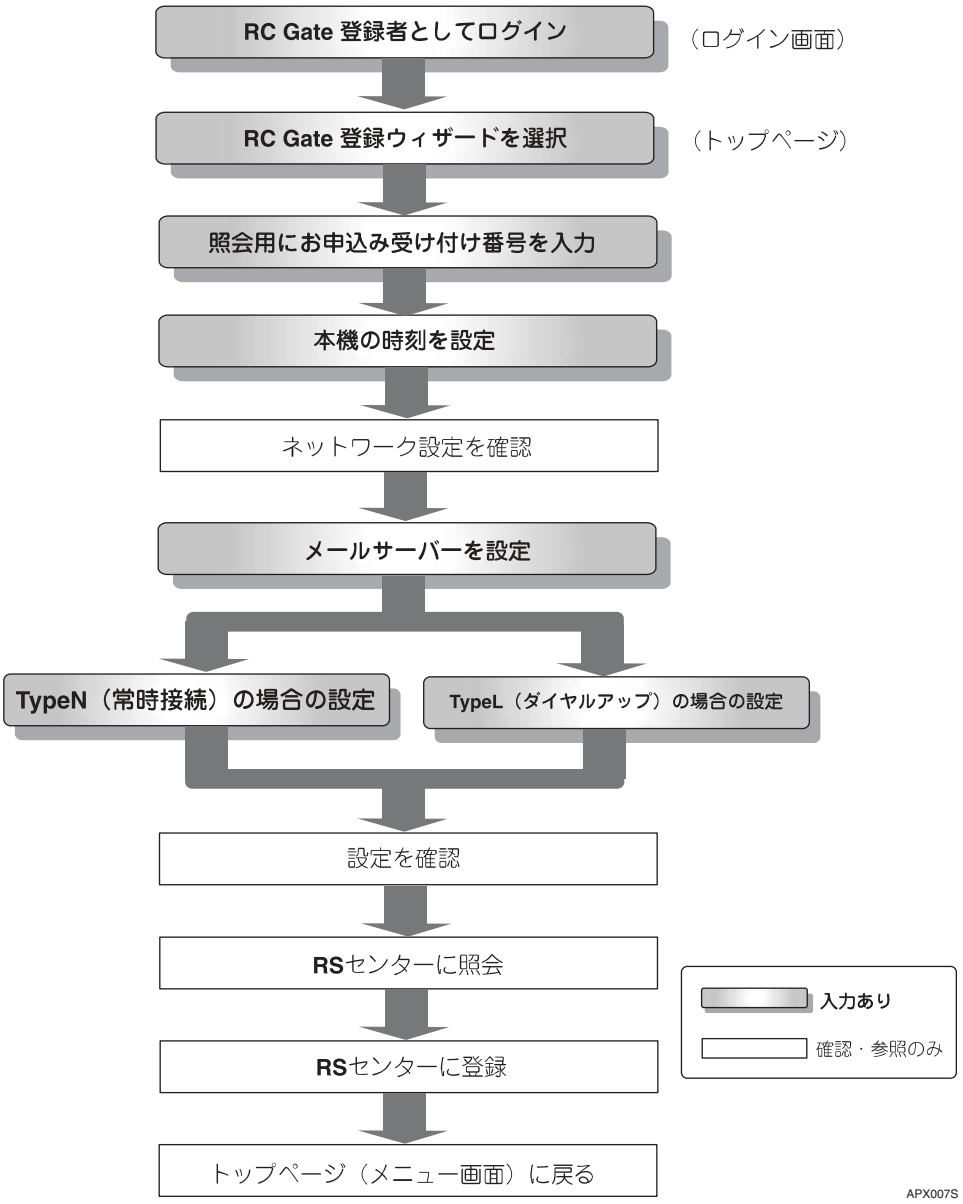
[△]をクリックすると、その項目の昇順でレコードの並べ替えを行います。[▽]をクリックすると、その項目の降順でレコードの並べ替えを行います。

4. 本機をRSセンターに照会・登録する

［RC Gate登録ウィザード］を使って、本機をRSセンターに照会・登録します。
［RC Gate登録ウィザード］ボタンは、「RC Gate登録者」でログインしたときに表示されるボタンです。

RC Gate登録ウィザードの流れ

ここでは、本機の設定方法および本機をRSセンターに登録し、確認する方法について説明します。



RC Gate登録ウィザードの操作手順

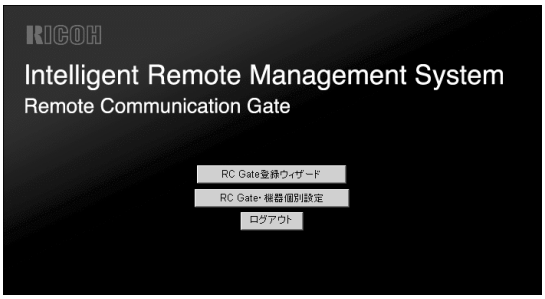
1 **Webブラウザーを起動します。RC Gateモニターを起動し、「RC Gate登録者」でログイ ンします。**

参照

P.34 「RC Gateモニターを起動するには」

「RC Gate登録者」のトップページが表示されます。

2 **［RC Gate登録ウィザード］ボタンをクリックします。**

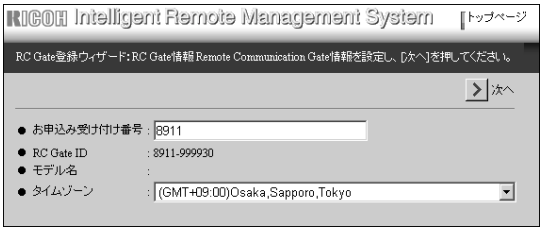


補足

- 「RC Gate管理者」でログインした場合、［RC Gate登録ウィザード］ボタンは表示されません。
- 「RC Gate登録者」でログインしたにもかかわらず、［RC Gate登録ウィザード］ボタンが表示されない場合は、RC Gate登録を完了しています。P.53 「機器登録ウィザードの流れ」へ進んでください。

［RC Gate登録ウィザード：RC Gate情報］画面が表示されます。

3 [お申込み受け付け番号] と [タイムゾーン] を確認します。



補足

❒ 各値を確認してください。表示された値は、本機のIPアドレスを設定する際、入力した値です。

❖ お申込み受け付け番号

『@Remote設定依頼書』の「お申込み受け付け番号」を入力します。[お申込み受け付け番号] はRSセンター照会時のキーとなるため、入力必須項目です。

補足

❒ 管理対象（登録）機器が複数台ある場合は、そのうちの 1 台の「お申込み受け付け番号」を入力してください。

❖ タイムゾーン

本機の設置場所の標準時間（グリニッジ標準時からの差異）を得るための地域名で、デフォルトは日本のタイムゾーンが表示されます。

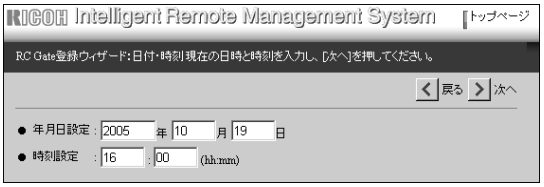
補足

❒ 本機は国内用にセットされていますので、変更しないでください。

4 [次へ] ボタンをクリックします。

[RC Gate登録ウィザード：日付・時刻] 画面が表示されます。

5 日付と時刻を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



重要

❒ 詳細についてはP.62 「日付・時刻」を参照してください。

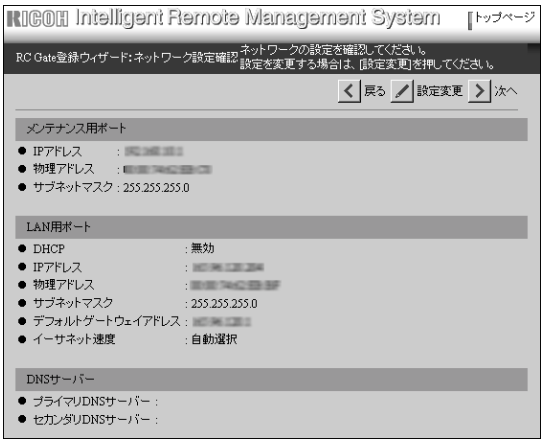
補足

❒ [次へ] ボタンをクリックすると、入力した時間でカウントが開始されます。

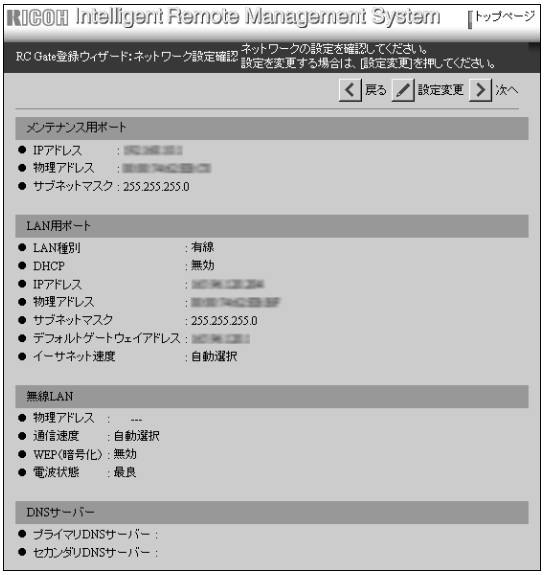
[RC Gate登録ウィザード：ネットワーク設定確認] 画面が表示されます。

6 ネットワークの設定を確認して、［次へ］ボタンをクリックします。

- ネットワークケーブル接続の場合



- 無線LANカード（オプション）使用時



［RC Gate登録ウィザード：メール設定］画面が表示されます。

ネットワークの設定を変更したい場合は

制限

❒ サブネットアドレスが変更になる場合は、P.22「本機のIPアドレス（LAN2ポート）を変更する」の手順に従って、LAN1ポートを使用して変更してください。LAN2ポートにアクセスしている場合は、同じサブネット内での変更にとどめてください。

❶ **［次へ］ボタンの代わりに、［設定変更］ボタンをクリックします。**

［RC Gate登録ウィザード：ネットワーク設定変更］画面が表示されます。

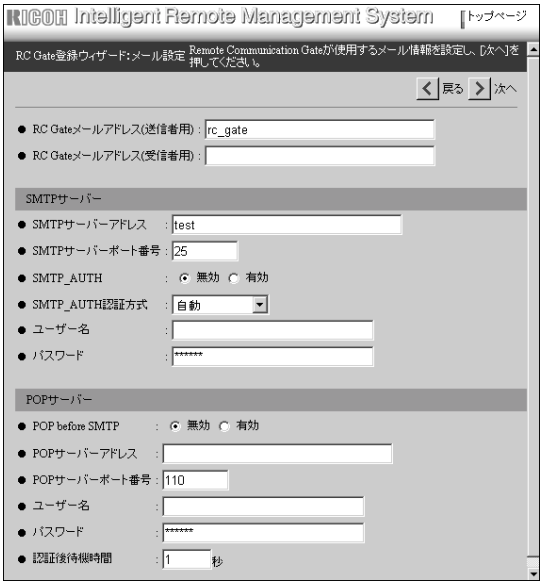
❷ **P.22 「本機のIPアドレス（LAN2ポート）を変更する」の手順14～16を実行します。**

重要

❒ IPアドレスの変更を行った場合は、本機の再起動後、そのままのURLではRC Gateモニターにアクセスできません。Webブラウザーの URL欄に「https://新IPアドレス/index.html」を入力してください。

7 メールの設定をします。

① ［RC Gateメールアドレス（送信者用）］から［SMTPサーバーポート番号］までの各項目 を入力します。



補足

❒ ［RC Gateメールアドレス（受信者用）］は、［RC Gateメールアドレス（送信者用）］で送信されたメールの、返信先のメールアドレスです。

参照

各項目の詳細についてはP.66 「メール」を参照してください。

② SMTPサーバーの認証方式を設定します。

❖ ［SMTP_AUTH］認証の場合

［SMTP_AUTH］を「有効」に設定します。［STMP_AUTH認証方式］のリストから認証方 式を選択し、［ユーザー名］および［パスワード］を入力します。

❖ ［POP before SMTP］認証の場合

［POP before SMTP］を「有効」に設定します。［POPサーバーアドレス］から［認証後待機時間］までの各項目を入力します。

❖ 認証を行わない場合

［SMTP_AUTH］および［POP before SMTP］を「無効」に設定します。

参照

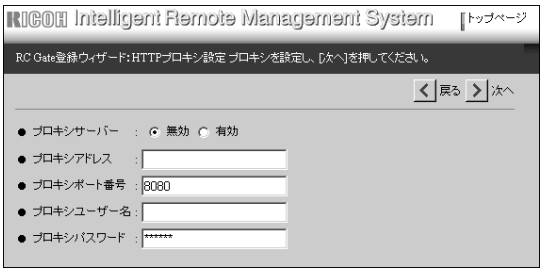
各項目の詳細についてはP.66 「メール」を参照してください。

8 [次へ] ボタンをクリックします。

Type N（常時接続）の場合

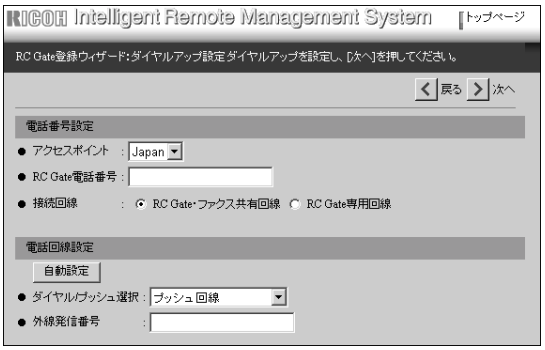
お使いのネットワークのインターネット接続機能を利用して、RSセンターにアクセスする設定のときは、[RC Gate登録ウィザード：HTTPプロキシ設定] 画面が表示されます。

❶ **プロキシサーバーを使用する場合は、[プロキシサーバー] を「有効」にして、[プロキシアドレス] から [プロキシパスワード] までを入力します。プロキシサーバーを使用しない場合は、[プロキシサーバー] を「無効」に設定します。**



Type L（ダイヤルアップ）の場合

RC Gate Type Lのモデムボードを利用して、RSセンターにアクセスする設定のときは、[RC Gate登録ウィザード：ダイヤルアップ設定] 画面が表示されます。



❶ **[アクセスポイント]、[RC Gate電話番号] と [接続回線] を設定します。**

❖ **アクセスポイント**

アクセスポイントは「Japan」と表示されています。

❖ **RC Gate電話番号**

使用する回線の電話番号を、( ) や「-」は使わずに市外局番から数字（および#、*）で入力します。

例：0312345678

補足

❒ 本機の電話番号を設定します（アクセスポイントの電話番号ではありません）。RSセンターから本機へコールするために必要です。

❖ 接続回線

使用する回線が、ファクス機の回線と共用（「RC Gate・ファクス共有回線」）か、本機専用（「RC Gate専用回線」）かを選択します。

補足

❒「RC Gate・ファクス共有回線」を選択すると、モデムボードの「FAX」端子が有効になります。

❷［自動設定］ボタンをクリックします。

「自動判定を行います」の確認ダイアログが表示されます。

❸［OK］ボタンをクリックします。

回線種別の自動判定が行われ、判定結果が［ダイヤル/プッシュ選択］欄、［外線発信番号］欄に設定されます。

補足

❒ 自動設定された場合は、手順❾に進みます。

❹ 自動設定できなかった場合は、［ダイヤル/プッシュ選択］欄と［外線発信番号］欄を手動で設定します。

❖ ダイヤル/プッシュ選択

回線の種別を選択します。

- プッシュ回線：ダイヤル番号を「ピ、ポ、パ」のように音階（トーン信号）により区別する回線です。トーン回線とも言います。
- ダイヤル回線（20PPS）：パルス信号の発信回数でダイヤル番号を表現する回線です。パルス回線とも言います。電話器がプッシュ式ボタンであっても、1を押すと「ジ」、2を押すと「ジジ」、3を押すと「ジジジ」…、0を押すと「ジジジジジジジジジジ」と聞こえる場合はダイヤル回線です。20PPSは、1秒間に20回発信するパルス信号であることを示しています。
- ダイヤル回線（10PPS）：1秒間に10回発信するパルス信号でダイヤル番号を表現するパルス回線です。最近はほとんど使われていません。0を回してみて、「ジジジジジジジジジジ」が1秒かかった場合は10PPS、0.5秒であれば20PPSです。

❖ 外線発信番号

外線を利用するときに必要な番号を入力します。不要の場合は入力しません。

補足

❒ 外線発信番号の後にポーズが必要な場合は、カンマ「,」を入力してください。カンマ1つで2秒間のポーズとなります。

9 ［次へ］ボタンをクリックします。

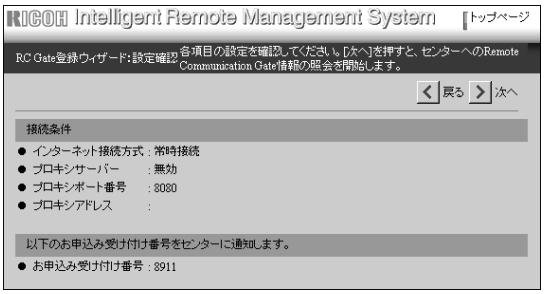
補足

❒ ［次へ］ボタンの代わりに［戻る］ボタンをクリックすると、入力内容がクリアされて、［RC Gate登録ウィザード：メール設定］画面に戻ります。

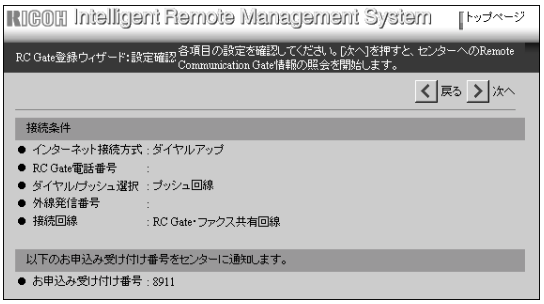
［RC Gate登録ウィザード：設定確認］画面が表示されます。

10 設定内容に誤りがないか確認して、入力ミスがなければ［次へ］ボタンをクリックします。

- 常時接続の場合



- ダイヤルアップの場合



補足

❒ 設定内容を修正したい場合は［戻る］ボタンをクリックします。手順**3**の［RC Gate登録ウィザード：RC Gate情報］画面に戻ります。

［RC Gate登録ウィザード：照会］画面が表示され、設定内容をRSセンターに照会します。

照会が終了すると、［RC Gate登録ウィザード：照会結果］画面が表示されます。

補足

❒ RSセンターへの照会作業には数分かかります。特に「ダイヤルアップ」方式の場合、RSセンターに電話をかける/RSセンターからの電話を受ける等のテストが行われるため、時間がかかる場合がありますが、［RC Gate登録ウィザード：照会結果］画面が表示されるまでお待ちください。

11 [照会結果] 欄に「お申込み受け付け番号の照会が正常に終了しました」と表示されていることを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。

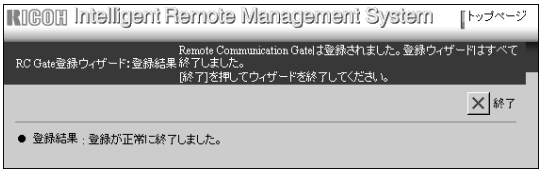
補足

❒ 照会失敗時には、[戻る] ボタンが表示されます。[戻る] ボタンをクリックして、手順3の [RC Gate登録ウィザード：RC Gate情報] 画面からやり直してください。

[RC Gate登録ウィザード：登録] 画面が表示され、RSセンターに設定内容が登録されます。

登録が終了すると、[RC Gate登録ウィザード：登録結果] 画面が表示されます。

12 [登録結果] 欄に「登録が正常に終了しました」と表示されていることを確認し、[終了] ボタンをクリックします。



RC Gate登録ウィザードが終了し、トップページに戻ります。

補足

❒ 通信障害等により登録に失敗した場合は[戻る]ボタンが表示されます。[戻る]ボタンをクリックして、手順3の [RC Gate登録ウィザード：RC Gate情報] 画面からやり直してください。

5. 管理対象の画像I/O機器をRSセンターに照会・登録する

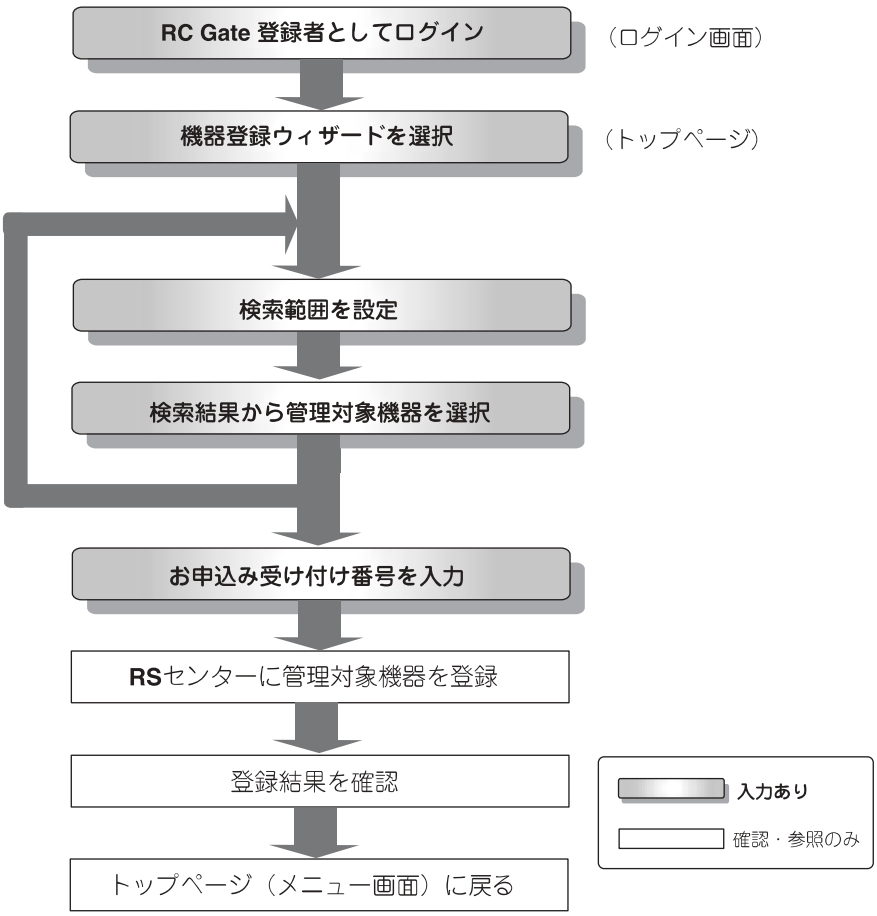
［機器登録ウィザード］を使って、管理対象機器をRSセンターに照会・登録します。

［機器登録ウィザード］は、RC Gate登録者でログインし、［RC Gate登録ウィザード］が終了していると表示されるボタンです。

参照

画面の構成と操作方法については、P.39「ウィザード画面の構成と操作方法」を参照してください。

機器登録ウィザードの流れ



APX008S

機器登録ウィザードの操作手順

1 RC Gate登録者用のトップページから、[機器登録ウィザード] ボタンをクリックします。

補足

- RC Gate登録者用のトップページが表示されていない場合は、P.44「RC Gate登録ウィザードの操作手順」の手順1で表示します。
- [RC Gate登録ウィザード] が終了していない場合、[機器登録ウィザード] ボタンは表示されません。
- RC Gate管理者のパスワードでログインした場合、[機器登録ウィザード] ボタンは表示されません。

[機器登録ウィザード：検索範囲設定] 画面が表示されます。

2 管理する機器を検索するために、[IPアドレス検索範囲] や [SNMPコミュニティ名] を入力します。

❖ IPアドレス検索範囲

本機が管理するLAN接続の画像I/O機器の検索範囲を設定します。検索開始および検索終了IPアドレスを、8ビット区切りの10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。

補足

- ❒ モジュラーコード（RS-485）で接続された画像I/O機器は、入力されたIPアドレスの検索範囲とは関係なく、検索されます。
- ❒ ネットワーク接続された管理対象となる画像 I/O 機器の IP アドレスがすでに定義済みの場合、開始（左側のボックス）と終了（右側のボックス）の両方のIPアドレス検索範囲入力ボックスに、そのIPアドレスを入力してください。これにより検索時間が短縮されます。
- ❒ 検索範囲となる終了IPアドレスは、開始IPアドレスよりも大きな値を入力してください。終了IPアドレスよりも大きな値を開始IPアドレスに入力した場合は、検索エラーになります。
- ❒ 検索終了IPアドレスに「0.0.0.0」を設定した行の検索は行いません。
- ❒ 検索終了IPアドレスに「0.0.0.0」以外を設定して、検索開始IPアドレスに「0.0.0.0」を設定した場合はエラーになります。

❖ SNMPコミュニティ名

［IPアドレス検索範囲］でSNMP対応機を検索する場合は、対応するSNMPコミュニティ名を英数字30文字以内で入力します。

補足

- ❒ 管理対象機器が、HTTP対応機かRS-485接続機器だけの場合は、本項目には何も設定しません。
- ❒ SNMPコミュニティ名は、本機がSNMP対応機に問い合わせをするときにパスワードのような働きをするもので、SNMP対応機側で設定されています。詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。
- ❒ ［SNMPコミュニティ名］は、使用頻度の高い順番に入力します。
- ❒ 使用していない［SMTPコミュニティ名］は削除してください。

制限

- ❒ 本画面で一度に設定できる検索範囲の条件は10項目以内です。ただし、検索範囲の条件で 検索できる機器の数は、合計100台までです。検索範囲が10項目を超える場合、または 100台を超える場合は、手順**5**で［追加検索］ボタンをクリックして検索・選択を繰り返し て、選択機器を増やしてください。このとき、［選択機器一覧］ボタンをクリックすると、すでに検索・選択した機器の一覧が別ウィンドウで表示されます。

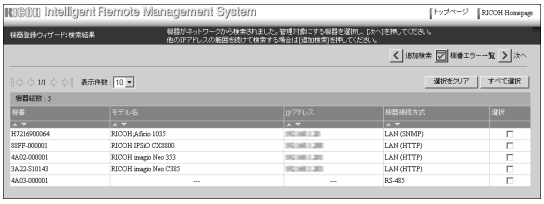
3 ［次へ］ボタンをクリックします。

補足

- ❒ ［選択機器一覧］ウィンドウが開かれていた場合は、自動的に閉じられます。

［機器登録ウィザード：検索］画面が表示され、検索が終了すると、［機器登録ウィザード：検索結果］画面が表示されます。

4 検索された機器の中から、管理対象にする機器の［選択］欄にチェックを入れます。



補足

- ［選択］欄がマスク（灰色表示）されている機器は、登録済みの機器です。
- 繰り返し検索･選択を行った場合で、今回の検索範囲内に前回選択済みの機器があるときは、その機器の［選択］欄はあらかじめチェックされて表示されます。チェックを外すと、選択を解除します。
- ［すべて選択］をクリックすると、現在のページに表示されていない機器を含め、すべての機器が選択されます。
- ［選択をクリア］をクリックすると、現在のページに表示されていない機器を含め、すべての機器の選択が解除されます。
- ［機番エラー一覧］をクリックすると、［機器登録ウィザード: 機番エラー一覧］画面が別ウィンドウに表示されます。この画面には、本機が機番を識別できない機器のIPアドレス、物理アドレス、モデル名、機器接続方式が表示されます。

5 ［次へ］ボタンをクリックします。

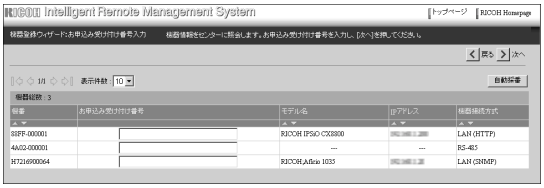
補足

- 繰り返し検索・選択を行う場合は、［追加検索］ボタンをクリックします。［追加検索］ボタンをクリックすると、［機器登録ウィザード：検索範囲設定］画面に戻り、検索条件を変えて機器を追加検索することができます。

［機器登録ウィザード：機器登録準備］画面が表示され、準備が終了すると、［機器登録ウィザード：お申込み受け付け番号入力］画面が表示されます。

6 管理対象機器ごとに［お申込み受け付け番号］を入力します。

［機器接続方式］の列に、［LAN(HTTP)］または［RS-485］と表示された行のすべての管理対象機器に［お申込み受け付け番号］を入力してください。



補足

- お申込み受け付け番号は、『@Remote設定依頼書』に記載されています。『@Remote 設定依頼書』を紛失した場合は、サービス実施店にご連絡ください。

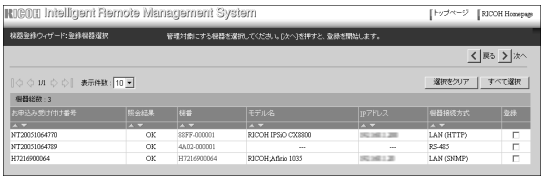
7 ［自動採番］ボタンをクリックします。

［機器接続方式］の列に、［LAN(SNMP)］と表示された行の機器には［お申込み受け付け番号］が自動的に採番されます。

8 [次へ] ボタンをクリックします。

[お申込み受け付け番号] に基づいて、RSセンターに管理対象機器の照会が行われます。[機器登録ウィザード:照会] 画面が表示され、照会が終了すると、[機器登録ウィザード:登録機器選択] 画面が表示されます。

9 RSセンターに登録する機器の [登録] 欄にチェックを入れます。



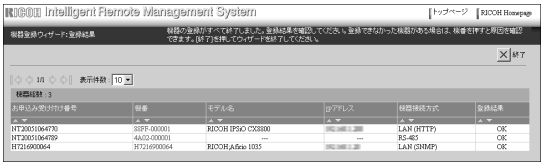
補足

- RSセンターへの照会が成功しなかった場合は、[登録] 欄のチェックボックスは選択できないようになり、[照会結果] 欄に「NG」と表示されます。[機番] をクリックすると、[機器登録ウィザード:機器詳細] 画面が別ウィンドウで表示され、「照会結果」欄に対処方法が表示されます。画面に表示される指示あるいはエラーコードを参考にしてください。
- [照会結果] 欄が「OK」の場合も、[機番] をクリックすると、[機器登録ウィザード:機器詳細] 画面が別ウィンドウで表示され、RSセンターから送られてきた照会機器の詳細情報を確認できます。同一モデルを複数台ご利用の場合は、「機器設置場所」でそれぞれが正しい情報かを確認します。確認後は、[閉じる] ボタンをクリックして、[機器登録ウィザード:登録機器選択] 画面に戻ってください。

10 [次へ] ボタンをクリックします。

[機器登録ウィザード:登録] 画面が表示され、RSセンターへの登録が終了すると、[機器登録ウィザード:登録結果] 画面が表示されます。

11 登録結果を確認します。



補足

- [登録結果] 欄下の [△] をクリックすると、「NG」「OK」の順に並べ替えが行われます。
- [登録結果] 欄に「NG」と表示された機器は登録に失敗しました。「NG」の [機番] をクリックすると、[機器登録ウィザード:機器詳細] 画面が別ウィンドウで表示され、「登録結果」欄に対処方法が表示されます。画面に表示される指示あるいはエラーコードを参考にしてください。
- [登録結果] 欄に「OK」と表示された機器は、登録されました。[機番] をクリックすると、[機器登録ウィザード:機器詳細] 画面が別ウィンドウで表示され、登録機器の詳細情報を確認できます。確認後は、[閉じる] ボタンをクリックして、[機器登録ウィザード:登録結果] 画面に戻ってください。

12 [終了] ボタンをクリックします。

RC Gate登録者のトップページに戻ります。

参照

RC Gateモニターの終了については、P.38 「RC Gateモニターを終了するには」を参照してください。.

6. 登録内容の詳細を参照・変更する

トップページの［RC Gate・機器個別設定］ボタンをクリックすると、本機の設定内容を参照・変更したり、管理対象機器の情報を個別に参照することができます。また、管理対象機器のファームウェアの更新もここから可能です。このほか、本機の再起動の実施や通信ログを参照するなどの本機の保守に関する機能も有しています。

参照

P.34 「RC Gateモニターを起動するには」

［RC Gate・機器個別設定］の各画面について

RC Gateモニターのログイン画面で、「RC Gate管理者」（表中は「管理者」と表記）でログインした場合と「RC Gate登録者」（表中は「登録者」と表記）でログインした場合では、［RC Gate・機器個別設定］ボタンをクリックしたときのメニューが異なります。

［RC Gate・機器個別設定］の各画面の説明および、「RC Gate管理者」ログイン時または「RC Gate登録者」ログイン時のメニュー表示については、下表をご覧ください。

P.61 「基本」以降については、各画面の詳細説明となります。

参照

P.40 「RC Gate・機器個別設定の画面構成と操作方法」

大項目	中項目	画面名	画面概要	管理者	登録者
RC Gate設定		基本	本機の詳細な情報を表示します。	✶	✶
		日付・時刻	本機の内蔵時計を調整します。	✶	✶
		ネットワーク	本機のネットワークの設定を行います。	✶	✶
		メール	本機が使用するメールの設定を行います。	✶	✶
	インターネット接続設定	接続設定詳細	Type Nの場合は本機が使用するHTTPプロキシの設定、Type Lの場合はダイヤルアップの設定を行います。	✶	✶
機器管理		機器共通管理	本機が管理する機器の共通設定を表示します。	✶	✶
		登録機器一覧	本機が管理している機器の情報を表示します。 表示されている機器の［機番］をクリックすると、［機器詳細］画面が表示されます。	✶	✶
		機器ファームウェア更新	本機が管理している機器のファームウェアの更新を行う画面です。	✶	✶

大項目	中項目	画面名	画面概要	管理者	登録者
メンテナンス		RC Gate再起動	本機を再起動します。	ー	✳
		RC Gateシャットダウン	本機をシャットダウンします。	✳	✳
	センターコール	通信テストコール	RSセンターとの通信テストを行います。	ー	✳
		機器確認依頼コール	RSセンターとの通信テストを行い、結果をRSセンターに通知します。	✳	✳
		通信ログ	RSセンターとの通信ログを表示します。	✳	✳
		サービスコール	障害が発生した場合に、その内容を表示します。	✳	✳
		システム状態	本機のシステム状態を表示します。	✳	✳
セキュリティ		パスワード	認証時のパスワードを変更します。	✳	✳
		アクセス許可	カスタマーエンジニアが本機へログインできるかどうか、また、RSセンターからRC Gateファームウェア更新を許可するかどうかを制限します。	✳	ー
		アクセスログ	ユーザーが本機にアクセスしたログが閲覧できます。	✳	✳

✳：メニュー表示　ー：メニュー非表示

基本

本機に関する基本情報の閲覧が可能です。［RC Gate設定］-［基本］で表示します。

項目名	項目説明	管理者	登録者
RC Gate ID	本機を識別するための番号です。製品ごとに固有の番号が振られています。	△	△
モデル名	本機のモデル名です。	△	△
RC Gate設置部課	本機を設置した部課名・場所です。	△	△
アプリケーションバージョン	本機に内蔵されているアプリケーションソフトウェアのバージョンです。	△	△
アプリケーション更新日時	本機に内蔵されているアプリケーションソフトウェアを、更新した最終日時です。	△	△
OSバージョン	本機に内蔵されているOSのバージョンです。	△	△
OS更新日時	本機に内蔵されているOSを更新した最終日時です。	△	△
タイムゾーン	本機を設置した場所の標準時間（グリニッジ標準時からの差異）です。	○	○
サービス実施店	本機の取扱店です。	△	△
サービス実施店連絡先	本機の取扱店の電話番号です。	△	△
ログ最大容量	本機が収集するログファイルの容量の最大値です。	×	△
ログ収集レベル	本機が収集するログのレベル（障害/警告/操作/情報）です。	×	△

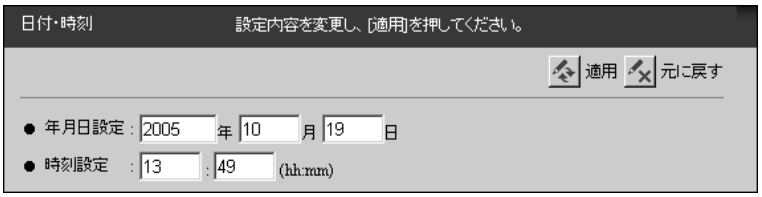
×：表示されません。　△：表示のみです。　○：変更できます。

日付・時刻

本機の時計の確認・変更が可能です。[RC Gate設定] - [日付・時刻] をクリックすると、画面が表示されます。[適用] ボタンをクリックすると、確認ダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、時計のカウントが開始されます。

重要

❒ 日付と時刻は定期的に確認し、必要であれば正しい日時に調整してください。



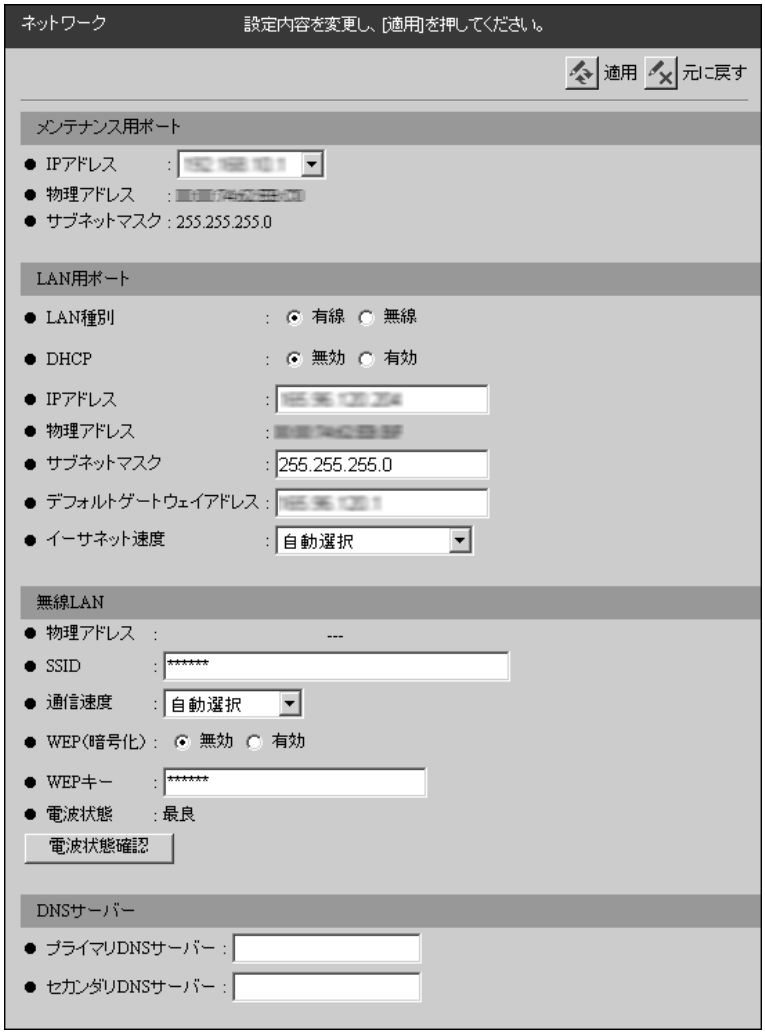
項目名	項目説明	管理者	登録者
年月日設定	本機を設置した場所の日付を設定します。今日の日付に設定してください。	○	○
時刻設定	本機を設置した場所の時刻を設定します。今の時刻に設定してください。	○	○

○：変更できます。

ネットワーク

本機のネットワーク設定の表示・変更が行えます。［RC Gate設定］-［ネットワーク］で表示します。値を変更後、［適用］ボタンをクリックすると、本機を再起動するかどうか確認するダイアログが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、本機を再起動します。

下図は無線LANカード（オプション）装着時の画面です。



項目分類	項目名	項目説明	管理者	登録者
メンテナンス用ポート	IPアドレス	LAN1ポートのIPアドレスです。ネットワーク環境により、本機のLAN1ポートのIPアドレスに192.168.10.1が利用できない場合、192.168.1.1または192.168.250.1に変更することができます。	△	○
	物理アドレス	LAN1ポートのMACアドレスです。	△	△
	サブネットマスク	LAN1ポートのサブネットマスクです。	△	△
LAN用ポート	LAN種別 *1	有線LAN/無線LANの別を選択します。無線LANカード（オプション）装着時に使用します。	○	○
	DHCP	DHCPサーバーをご利用時は、「有効」に設定します。	○	○
	IPアドレス	本機（LAN2ポート）のIPアドレスです。DHCP欄が「有効」の場合は、DHCPサーバーから割り振られた本機のIPアドレスが表示されています。	○	○
	物理アドレス	本機（LAN2ポート）のMACアドレスです。	△	△
	サブネットマスク	本機（LAN2ポート）のサブネットマスクです。DHCP欄が「有効」の場合は、DHCPサーバーから取得された値が表示されています。	○	○
	デフォルトゲートウェイアドレス	本機が使用するゲートウェイのアドレスです。DHCP欄が「有効」の場合は、DHCPサーバーから取得された値が表示されています。	○	○
	イーサネット速度	本機のLAN2ポートのイーサネット速度を選択します。	○	○
無線LAN *1	物理アドレス *1	無線LANカードのMACアドレスです。	△	△
	SSID *1	無線LANのSSIDを半角で32文字まで入力できます。	○	○
	通信速度 *1	無線LANの転送速度を、Auto/11Mbps/5.5Mbps/2Mbps/1Mbnpsの中から選択します。	○	○
	WEP（暗号化）*1	転送するデータを暗号化するかしないかを選択します。	○	○
	WEPキー *1	WEP（暗号化）を「有効」にした場合、暗号化に用いる秘密鍵です。 秘密鍵に40ビット長のデータを使う場合（64ビットWEP）は半角で5文字または16進数10桁、128ビットWEPの場合は半角で13文字または16進数26桁を入力します。	○	○

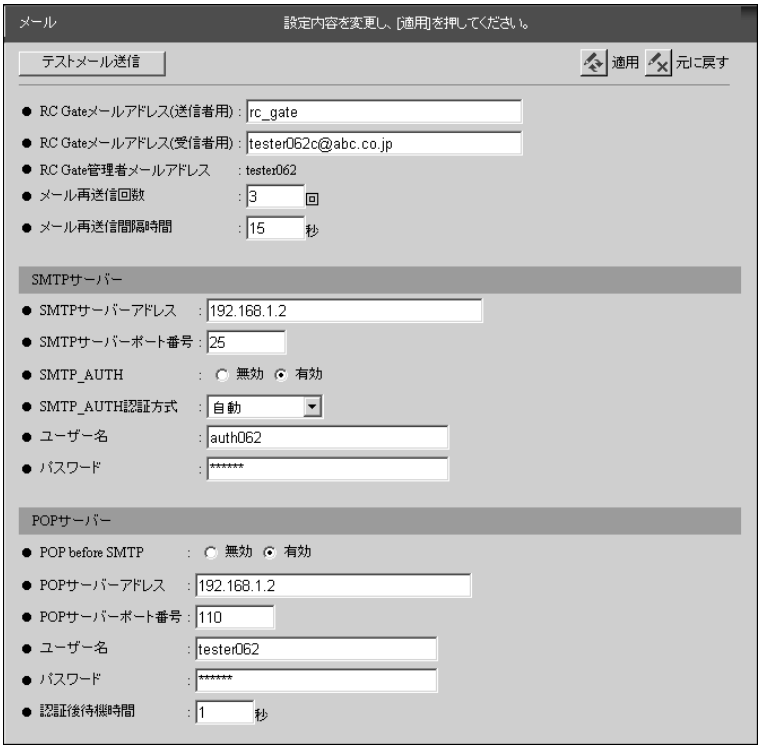
項目分類	項目名	項目説明	管理者	登録者
無線LAN *1	電波状態 *1	無線LAN信号の状態を示します。 最良: - 40dBm以上。 良: - 80～ - 61dBm。 不安定: - 100～ - 81dBm。 通話不可: - 101dBm以下。	△	△
	電波状態確認 (ボタン) *1	［電波状態］を更新します。	○	○
DNSサーバー	プライマリDNSサーバー	本機が主に使用するDNSサーバーのIPアドレスを入力します。IPアドレスは、"x.x.x.x"の形式で適切な数値を入力してください（“x”は0～255の範囲内の整数）。 プロキシサーバーまたはSMTPサーバーに名称ではなくIPアドレスを入力する場合、本項目の入力は不要です。	○	○
	セカンダリDNSサーバー	なんらかの理由で［プライマリDNSサーバー］が使用できず、［セカンダリDNS サーバー］を使用する場合、［セカンダリDNSサーバー］のIPアドレスを入力します。IPアドレスは、"x.x.x.x"の形式で適切な数値を入力してください（“x”は0～255の範囲内の整数）。	○	○

△：表示のみです。　○：変更できます。

*1 Type Nのオプションの無線LANカードを装着したときのみ、表示される項目です。

メール

本機が使用するメール設定情報の表示・変更が行えます。［RC Gate設定］-［メール］で表示します。
下図はRC Gate管理者でログインしたときの画面です。



重要

❒ RC Gate管理者メールアドレス宛てには、「平文(プレーンテキスト)」で送信されます。

項目分類	項目名	項目説明	管理者	登録者
	テストメール送信（ボタン）	SMTPサーバーアドレスの設定確認のためのテストボタンです。クリックすると、［RC Gate管理者メールアドレス］宛てにテストメールが送信されます。本項目は、本機の登録が完了するまでは表示されません。	○	○
	RC Gateメールアドレス（送信者用）	本機のメールアドレスです。「センター接続休止/復旧通知」や、管理対象機器の「機器停止通知」、「機器ファームウェア更新通知」等の各種メール発信時に使用されます。デフォルト値として「rc_gate」が設定されています。変更する場合、入力できる文字数は半角で126文字までです。	○	○

項目分類	項目名	項目説明	管理者	登録者
	RC Gateメールアドレス（受信者用）	［RC Gateメールアドレス（送信者用）］で送信されたメールの返信先のメールアドレスです。 ［RC Gateメールアドレス（送信者用）］と別のメールアドレスを設定できます。カンマ（,）で区切ることで、複数のメールアドレスを設定できます。その場合、入力できる文字数は半角で255文字までです。	○	○
	RC Gate管理者メールアドレス	「センター接続休止通知」や「センター接続復旧通知」メール等を受信する、本機の管理者のメールアドレスです。本項目は、本機の登録が完了するまでは表示されません。	△	△
	メール再送信回数	メール送信が失敗したとき、SMTPサーバーへの接続を試みる回数を設定します。1〜10回の範囲で設定することができます。	○	×
	メール再送信間隔時間	メール送信が失敗したとき、SMTPサーバーへの接続を試みる期間を設定します。1〜60秒の範囲で設定することができます。	○	×
SMTPサーバー	SMTPサーバーアドレス	「センター接続休止/復旧通知」や、管理対象機器の「機器停止通知」、「機器ファームウェア更新通知」等の各種メールを管理者宛てにメールで通知します。そのときに本機が使用する電子メール送信サーバーです。IPアドレスで指定する場合は、8ビット区切りの10進数で「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。SMTPサーバーをドメイン名で指定する場合は、P.63「ネットワーク」の DNSサーバーの設定が必要です。	○	○
	SMTPサーバーポート番号	SMTPサーバーが使用するポート番号です。通常は25を指定します。	○	○
	SMTP_AUTH	お使いのSMTPサーバーがSMTP認証を使用している場合は、「有効」を選択します。SMTPサーバーがSMTP認証を使用していない場合、またはPOP before SMTP認証を使用している場合は、「無効」を選択します。	○	○
	SMTP_AUTH認証方式	［SMTP_AUTH］を「有効」に設定する場合は、本項目を設定します。自動、DIGESTMD5、CRAM-MD5、LOGINおよびPLAINから選択します。	○	○
	ユーザー名	SMTP_AUTHの認証方式で使用するユーザー名（ユーザー ID）です。	○	○

項目分類	項目名	項目説明	管理者	登録者
SMTPサーバー	パスワード	SMTP_AUTHの認証方式で使用する［ユーザー名］のパスワードです。	○	○
POPサーバー	POP before SMTP	お使いのSMTPサーバーがPOP before SMTP認証を使用している場合は、「有効」を選択します。SMTP認証を使用していない場合、またはSMTP_AUTHの認証方式を使用している場合は、「無効」を選択します。	○	○
	POPサーバーアドレス	POP before SMTP認証を使用する場合、本項目はIPアドレスまたはPOPサーバー名となります。	○	○
	POPサーバーポート番号	POP before SMTP認証を使用しているPOPサーバーのポート番号です。通常は110に設定します。	○	○
	ユーザー名	POP before SMTP認証で使用するユーザー名（ユーザー ID）です。	○	○
	パスワード	POP before SMTP認証で使用する［ユーザー名］のパスワードです。	○	○
	認証後待機時間	POP before SMTP認証でエラーが発生した場合、待ち時間を長く設定してください。待ち時間は0～30秒の範囲で設定してください。	○	○

×：表示されません。　△：表示のみです。　○：変更またはクリックできます。

メール送信の確認

次の手順で、メールが正しく送信できるかご確認ください。

補足

❒ 設定を行う前に、SMTPサーバーの認証方式について、システム管理者にお問い合わせください。

1 ［テストメール送信］ボタンをクリックします。

2 RC Gate管理者のメールソフトにて、テストメールが届いているか確認します。

届いている場合は、その設定で運用してください。

3 テストメールが届かなかった場合は、［RC Gateメールアドレス（送信者用）］欄にRC Gate管理者のメールアドレスを入力するなどして、手順1～2を繰り返してください。

補足

❒ メールアドレスとして@マーク以降も入力するなど、環境に合わせて試行してください。

❒ POP before SMTP認証でエラーが発生した場合、［認証後待機時間］をさらに長めに設定してください。

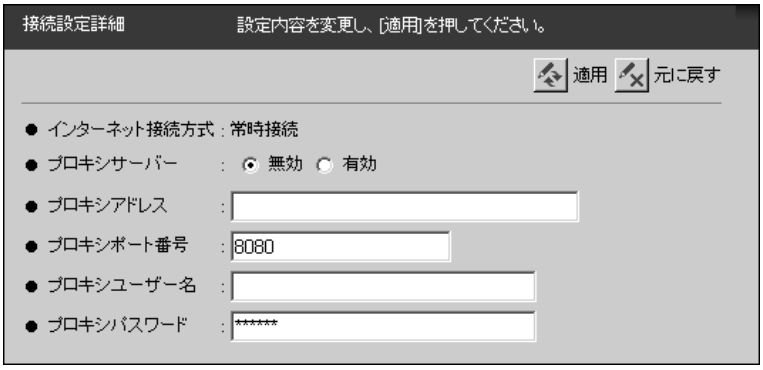
4 試行の結果、テストメールが届かなかった場合は、サービス実施店にご連絡ください。

接続設定詳細

インターネットの接続方式に関する詳細情報の表示・変更が行えます。[RC Gate設定]-[インターネット接続設定]-[接続設定詳細]で表示しますが、インターネット接続方式が常時接続の場合とダイヤルアップの場合で、表示される画面が異なります。

Type N（常時接続）の場合

Type Nの場合、設定されたHTTPプロキシの表示・変更が行えます。



制限

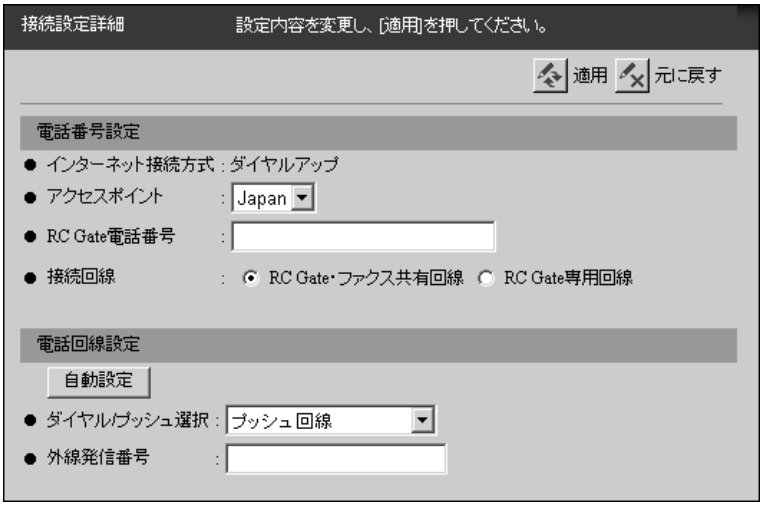
❒ HTTP プロキシのパスワードを定期的に変更する運用の場合、RS センターとの通信が正常に行えません。

項目名	項目説明	管理者	登録者
インターネット接続方式	「常時接続」方式が選択されていることを示しています。	△	△
プロキシサーバー	HTTPプロキシを有効にするか無効にするかの選択です。「有効」の場合は、以下の各項目を設定します。「無効」の場合は、以下の各項目の設定は不要です。	○	○
プロキシアドレス	HTTPプロキシを8ビット区切りの10進数で「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。HTTPプロキシサーバーをドメイン名で指定する場合は、P.63 「ネットワーク」の DNSサーバーの設定が必要です。	○	○
プロキシポート番号	HTTPプロキシのポート番号を半角数字で入力します。	○	○
プロキシユーザー名	HTTPプロキシの認証用のユーザー名を半角英数字30文字以内で入力します。	○	○
プロキシパスワード	HTTPプロキシの認証用に、ユーザー名に対応するパスワードを半角英数字30文字以内で入力します。	○	○

△：表示のみです。　○：変更できます。

Type L（ダイヤルアップ）の場合

モデム内蔵のType Lの場合に表示される画面です。ダイヤルアップに関する設定の表示・変更が行えます。



項目分類	項目名	項目説明	管理者	登録者
電話番号設定	インターネット接続方式	「ダイヤルアップ」方式が選択されていることを示しています。	△	△
	アクセスポイント	「アクセスポイント」がJapanになっていることを確認します。	△	○
	RC Gate電話番号	本機の電話番号です。「-」や（ ）を入れずに、半角数字、#、*で市外局番から入力します。 例：0312345678	△	○
	接続回線	本機が使用する回線が、「RC Gate専用回線」（本機専用に回線を用意された場合）か、「RC Gate・ファクス共有回線」（既存のファクス機と回線を共有する場合）かを設定します。「RC Gate・ファクス共有回線」を選択すると、Type Lの「FAX」端子が有効になります。	△	○
電話回線設定	自動設定（ボタン）	回線種別と外線発信番号を自動で設定するボタンです。	×	○
	ダイヤル/プッシュ選択	本機の電話回線の種別です。手動で設定するときは、「プッシュ回線」、「ダイヤル回線（10PPS）」、「ダイヤル回線（20PPS）」の中から選択します。	△	○
	外線発信番号	外線にかけるときに必要な番号や記号（#、*、カンマ）です。外線発信番号の後にポーズが必要な場合は、カンマ「,」を入力します。カンマ1つで2秒間のポーズです。	△	○

×：表示されません。　△：表示のみです。　○：変更（ボタンはクリック）できます。

機器共通管理

画像I/O機器を管理するための各種動作設定の閲覧が可能です。［機器管理］-［機器共通管理］で表示します。

下図はRC Gate管理者でログインしたときの画面です。

項目分類	項目名	項目説明	管理者	登録者
情報取得管理	機器情報取得間隔時間	機器のデータを取得する間隔です。	△	△
	機器情報再取得間隔時間	機器のデータが正常に取得できなかったときに、再試行する間隔です。	△	△
	機器情報再取得回数	機器のデータが正常に取得できなかったときに、再試行する回数です。	△	△
	機器カウンター情報取得間隔時間	機器のカウンタデータを取得する間隔です。	△	△
	機器カウンター情報再取得間隔時間	機器のカウンタデータが正常に取得できなかったときに、再試行する間隔です。	△	△
	機器カウンター情報再取得回数	機器のカウンタデータが正常に取得できなかったときに、再試行する回数です。	△	△
ネットワーク接続管理	機器接続監視間隔時間（HTTP）	HTTPプロトコルで情報を取得する機器が接続されているかチェックする間隔です。	△	×
	機器接続監視間隔時間（SNMP）	SNMPプロトコルで情報を取得する機器が接続されているかチェックする間隔です。	△	×
	機器警告検知間隔時間（SNMP）	SNMPプロトコルで情報を取得する機器のアラートを検知する間隔です。	△	×
	機器再検索起動待機時間（HTTP・SNMP）	ネットワーク接続機器を見失ってから、機器の再検索が起動されるまでの時間です。	△	×

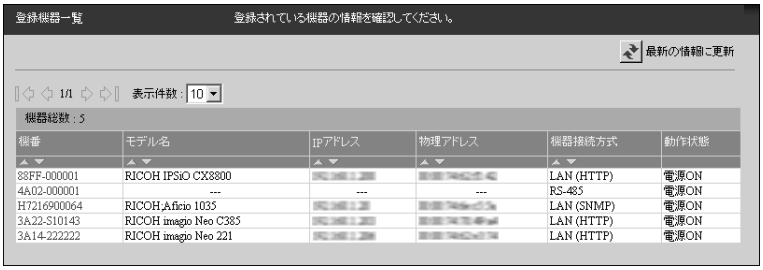
項目分類	項目名	項目説明	管理者	登録者
ネットワーク接続管理	機器再検索実行間隔時間（HTTP・SNMP）	ネットワーク接続機器を見失ってから、機器の再検索を実行する時間です。	△	×
	機器停止判断待機時間（HTTP・SNMP）	ネットワーク接続機器を見失ってから、停止していると判断するまでの時間です。	△	×
	機器長期間停止判断待機時間（HTTP・SNMP）	ネットワーク接続機器を見失ってから、長期間停止していると判断するまでの時間です。	△	×
	機器再検索対象（HTTP・SNMP）	ネットワーク接続機器の再検索が行われる機器を、「IPアドレスを自動的に取得（DHCP）した機器のみ」、「IPアドレスを自動的に取得（DHCP）及び指定した機器」から選択します。	○ *1	×
RS-485接続管理	機器接続監視間隔時間（RS-485）	RS-485接続されている機器があるかチェックする間隔です。	△	×
	機器停止判断待機時間（RS-485）	RS-485接続されている機器を見失ってから、停止していると判断するまでの時間です。	△	×
	機器長期間停止判断待機時間（RS-485）	RS-485接続されている機器を見失ってから、長期間停止していると判断するまでの時間です。	△	×
	断線判断待機時間（RS-485）	RS-485接続されている機器を見失ってから、断線していると判断するまでの時間です。	△	×

×：表示されません。　△：表示のみです。　○：変更できます。

*1　変更する場合は、サービス実施店にご連絡ください。

登録機器一覧

本機が管理している画像I/O機器の一覧表です。[機器管理] - [登録機器一覧] で表示します。[最新の情報に更新] ボタンをクリックすると、最新情報が表示されます。



項目名	項目説明	管理者	登録者
機番	機器の機番です。	○	○
モデル名	機器のモデル名です。モデル名が取得できない場合は「---」で表示されます。	△	△
IPアドレス	機器のIPアドレスです。RS-485接続機は「---」と表示されます。	△	△
物理アドレス	機器のMACアドレスです。RS-485接続機は「---」と表示されます。	△	△
機器接続方式	機器の接続方式です。 • LAN（HTTP）：HTTPプロトコルで情報を取得するネットワーク上の機器です。 • LAN（SNMP）：SNMPプロトコルで情報を取得するネットワーク上の機器です。 • RS-485：OA I/FにRS-485ケーブルで接続されている機器です。	△	△
動作状態	機器の稼働状態を表示します。 • 電源ON • 断線 • 電源OFF • 長時間停止	△	△

△：表示のみです。○：クリック時に［機器詳細］画面が表示されます。

機器詳細

本機が管理している画像I/O機器の詳細な情報を表示・変更できます。[機器管理] - [登録機器一覧] で一覧表示した中から、表示・変更したい［機番］をクリックすると表示されます。

項目名	項目説明	管理者	登録者
機番	機器の機番です。	△	△
機器名称	機器の名称です。変更する場合は半角30文字以内で設定します。	△	○
モデル名	機器のモデル名です。	△	△
IPアドレス	機器のIPアドレスです。	○	○
物理アドレス	機器のMACアドレスです。	△	△
カウンター検針日(時刻)	カウンターの検針日と時刻です。	△	△
機器接続方式	機器の接続方式です。 • LAN（HTTP）：HTTPプロトコルで情報を取得するネットワーク上の機器です。 • LAN（SNMP）：SNMPプロトコルで情報を取得するネットワーク上の機器です。 • RS-485：OA I/FにRS-485ケーブルで接続されている機器です。	△	△
機器ID（RS-485）	RS-485接続されている機器のID番号です。ネットワーク接続機器の場合は「0」と表示されます。	△	△
IPアドレス設定方式	ネットワーク接続機器のIPアドレスの取得方式です。「指定」、「自動的に取得（DHCP)」から選択します。	×	○

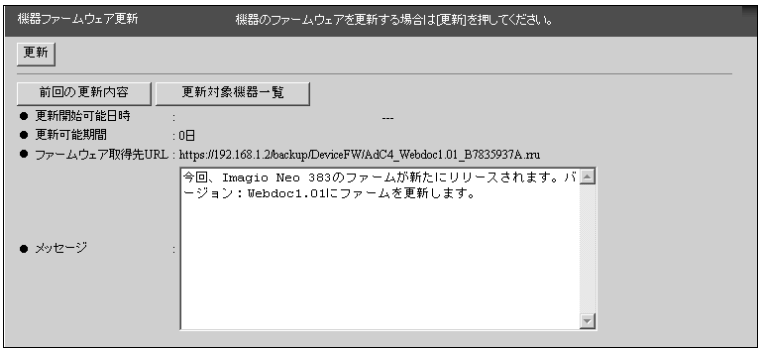
項目名	項目説明	管理者	登録者
SNMPコミュニティ名	SNMPプロトコルで情報を取得する機器の場合のコミュニティ名です。変更する場合は半角30文字以内で設定します。	△	○
機器設置場所	機器が設置されている場所です。変更する場合は半角30文字以内で設定します。	○	○
機器管理者メールアドレス	機器の担当者のメールアドレスです。「機器ファームウェア更新通知」メールや「機器停止通知」メール等のあて先となります。半角英数字120文字以内で設定します。	○	○
消耗品発注者メールアドレス	機器の消耗品を発注する担当者のメールアドレスです。半角英数字120文字以内で設定します。 ただし、サービスの内容・地域によっては表示されない場合があります。	○	○
サービス実施店	機器の取扱店です。	△	△
サービス実施店連絡先	機器の取扱店の連絡先電話番号です。	△	△
消耗品発注先	機器の消耗品の取扱店です。 ただし、サービスの内容・地域によっては表示されない場合があります。	△	△
消耗品発注先電話番号	機器の消耗品の取扱店の連絡先電話番号です。 ただし、サービスの内容・地域によっては表示されない場合があります。	△	△
動作状態	機器の稼働状態を表示します。 • 電源ON • 断線 • 電源OFF • 長時間停止	△	△

×：表示されません。　△：表示のみです。　○：変更できます。

機器ファームウェア更新

機器のファームウェアの更新を実行したり、更新スケジュールの表示が行えます。

［機器管理］-［機器ファームウェア更新］で表示します。また、RC Gate管理者宛てに「機器ファームウェア更新通知」メールが届いた場合、そのメール内のURLリンクをクリックすると、RC Gateモニターが起動され、ログイン後すぐに本画面が表示されます。

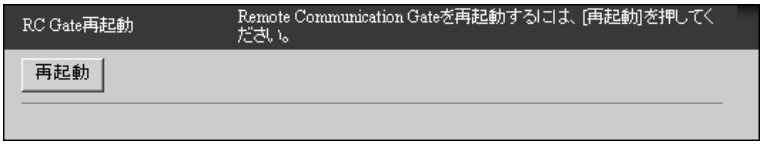


項目名	項目説明	管理者	登録者
更新（ボタン）	クリックすると、更新を実行します。 更新スケジュールがない場合や、スケジュール実行中、スケジュール実行可能日前の場合、本ボタンは表示されません。	○	○
前回の更新内容（ボタン）	クリックすると、前回実行時の結果を表示します。［前回の更新機器一覧］ボタンをクリックすると、過去に更新を実行した機器の機番、更新状態、更新日時、更新結果を表示します。 更新が一度も実行されていない場合は、［戻る］ボタンのみが表示されます。	○	○
更新対象機器一覧（ボタン）	クリックすると、更新可能な機器の機番、更新状況（更新準備中/更新済み等）、更新完了の場合は更新日時、更新結果を表示します。 更新スケジュールがない場合、本ボタンは表示されません。	○	○
更新開始可能日時	更新開始可能な日時を表示します。	△	△
更新可能期間	更新開始可能日時から更新可能な期間の日数を表示します。この期間内に更新が完了しない場合は、更新失敗とみなされます。	△	△
ファームウェア取得先URL	更新対象のファームウェアの取得場所を表示します。	△	△
メッセージ	RSセンターからのメッセージを表示します。	△	△

△：表示のみです。　○：クリックできます。

RC Gate再起動

本機の登録中に強制的に再起動が行えます。［メンテナンス］-［RC Gate再起動］で表示します。

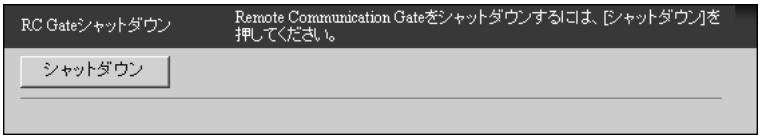


項目名	項目説明	管理者	登録者
再起動（ボタン）	クリックすると、本機を再起動します。再起動には数分かかります。本体正面の「Power」インジケーターが緑点灯し、赤色の「System Error」インジケーターとオレンジ色の「Comm.Error」インジケーターが消灯していることを確認してから、新しい操作を行ってください。	×	○

×：表示されません。　○：クリックできます。

RC Gateシャットダウン

本機のシャットダウンを行います。［メンテナンス］-［RC Gateシャットダウン］で表示します。
本機を電源から切断する前に、シャットダウンを行ってください。



項目名	項目説明	管理者	登録者
シャットダウン(ボタン)	クリックすると、本機をシャットダウンします。	○	○
シャットダウン(ダイアログ)	［シャットダウン］ボタンをクリックすると、表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、シャットダウン処理が開始され、［RC Gate シャットダウン中］画面が表示されます。	○	○

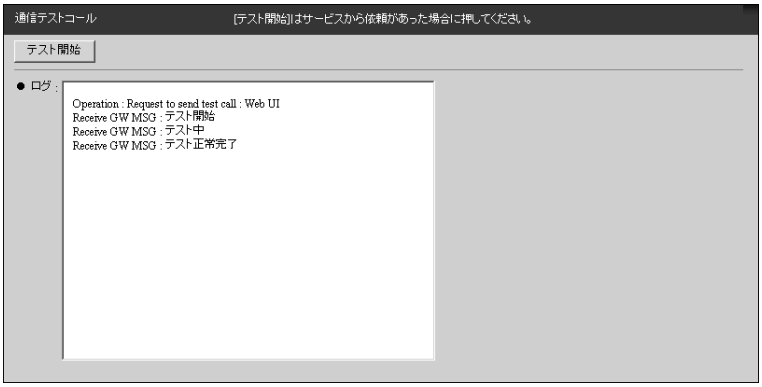
○：クリックまたは表示されます。

重要

❒ 本機を電源から切断する前にシャットダウンを行わないと、記憶媒体が破損したり、最新ログの最大1 時間分が失われることが あります。

通信テストコール

本機とRSセンターが接続されているかどうかのテストを行います。［メンテナンス］-［センターコール］-［通信テストコール］で表示します。



重要

❒［通信テストコール］は、サービス実施店からの依頼があった場合のみ行います。

項目名	項目説明	管理者	登録者
テスト開始（ボタン）	クリックすると、本機からRSセンターへテストコールを行います。	×	○
ログ	通信テストコールの結果として、RSセンターからのステータスメッセージを表示します。	×	△

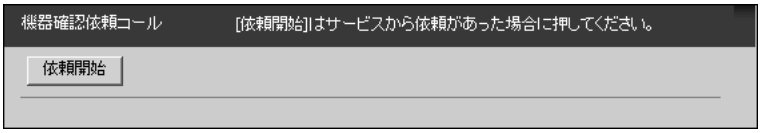
×：表示されません。　○：クリックできます。　△：表示のみです。

補足

❒［通信テストコール］の結果（ここでは［ログ］の内容）がRSセンターに送信されることはありません。これは、本機の通信テストのみの機能です。

機器確認依頼コール

本機とRSセンターが接続されているかどうかのテストを行い、その結果をRSセンターにも通知します。［メンテナンス］-［センターコール］-［機器確認依頼コール］で表示します。



重要

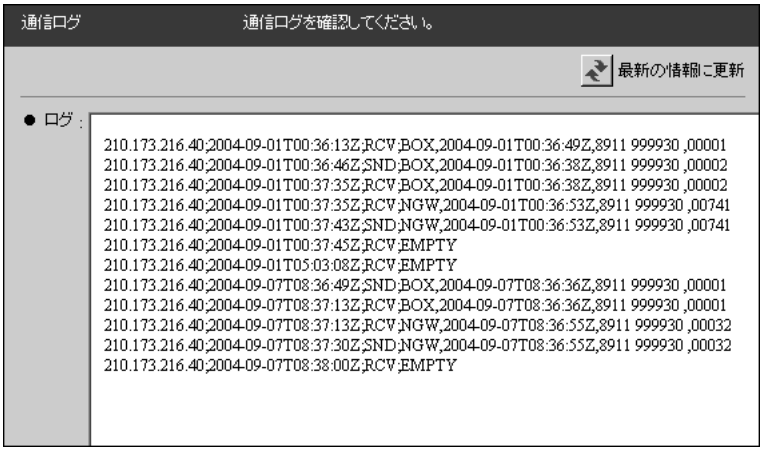
- ［機器確認依頼コール］は、サービス実施店からの依頼があった場合のみ行います。
- ［機器確認依頼コール］を使ってテストコールを行うと、本機の状態が、RSセンターに通知されます。

項目名	項目説明	管理者	登録者
依頼開始（ボタン）	クリックすると、本機からRSセンターへテストコールを行います。	○	○

○：クリックできます。

通信ログ

RSセンターとの通信状況が閲覧できます。［メンテナンス］-［通信ログ］で表示します。
［最新の情報に更新］ボタンをクリックすると、最新の通信ログを表示します。

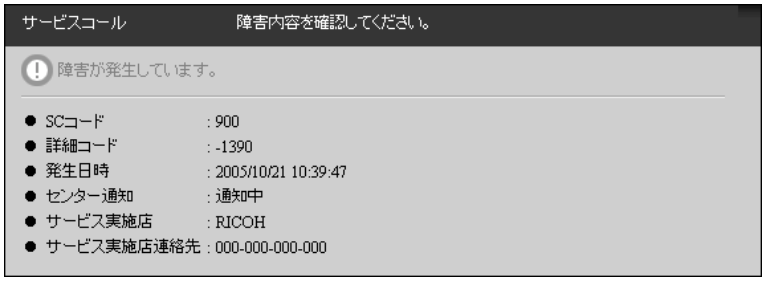


項目名	項目説明	管理者	登録者
ログ	時系列順に表示します。表示内容は、IPアドレス、送受信日時、送信受信区分、送受信内容の順です。日付はすべてUTC（協定世界時）で表示されます。	△	△

△：表示のみです。

サービスコール（障害情報）

本機に障害が発生した場合、その内容を表示する画面です。［RC Gate・機器個別設定］のメニュー操作中に障害が発生すると自動的に表示されるほか、［メンテナンス］-［サービスコール］で表示することもできます。ウィザード中に障害発生のメッセージが表示された場合は、［戻る］ボタンをクリックすると本画面が表示されます。



項目名	項目説明	管理者	登録者
（本機の状態）	本機障害時には「障害が発生しています。」と表示されます。なお、正常時には「障害はありません。」と表示され、以下の項目は表示されません。	△	△
SCコード	本機の障害に関するエラーコードです。	△	△
詳細コード	サービスコールの種類をコードで表示します。	△	△
発生日時	障害が発生した時刻を表示します。	△	△
センター通知	これはRSセンターに対する通知の状態を示します。 ・通知不要 ・通知中 ・通知済み ・通知失敗	△	△
サービス実施店	本機の取扱店です。	△	△
サービス実施店連絡先	本機の取扱店の電話番号です。	△	△

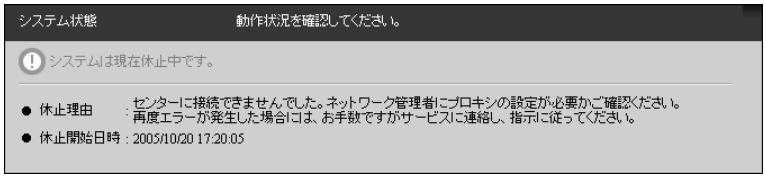
△：表示のみです。

障害が発生したときは

サービス実施店にご連絡ください。

システム状態

本機のシステムの状態を表示する画面です。［メンテナンス］-［システム状態］で表示します。また、本機が休止状態になった場合、RC Gate管理者宛てに「センター接続休止通知」メールが送信されます。メール内のURLリンクをクリックすると、RC Gateモニターが起動され、ログイン後すぐに本画面が表示されます。



項目名	項目説明	管理者	登録者
(本機の状態)	正常に動作しているかシステム休止かのどちらかを表示します。正常に動作している場合、以下の項目は表示されません。	△	△
休止理由	休止の主な原因と対策を表示します。	△	△
休止開始日時	休止状態になった時刻を表示します。	△	△

△：表示のみです。

6

システム休止の場合は

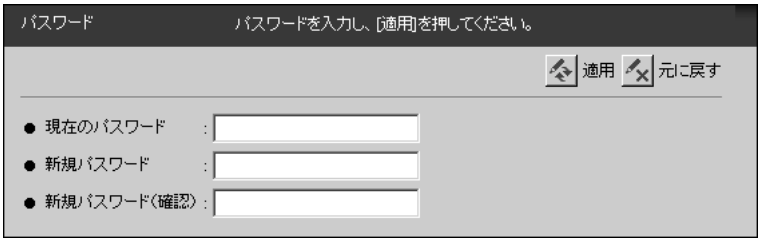
以下の項目をチェックしてください。

- パスワードをはじめ、プロキシに関する設定が変更になっていないか確認してください。
- 本機につながっているネットワークケーブルが抜けていないか確認してください。
- 本機につながっているハブなどのネットワーク機器の電源が入っているか確認してください。

以上がクリアされてもシステム休止状態の場合は、サービス実施店にご連絡ください。

パスワード

RC Gateモニターログイン時のパスワードの変更が行えます。[セキュリティ] - [パスワード] で表示します。



重要

- パスワードは工場出荷時のままではご使用にならず、変更してお使いください。新しいパスワードは8 ～13文字で設定してください。
- パスワードとして使用できるのは、以下の半角文字だけです。((スペース) ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 : ; < = > ? @ A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z [¥] ^ _ a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z)
- パスワードは定期的に変更してください。目安としては、少なくとも6ヵ月に1回程度でご利用ください。
- 辞書にあるような単語や同じ文字の繰り返しなど、容易に類推される単語はパスワードとして利用しないでください。
- パスワードを書き留めて、机など人目にふれるところに貼ったりしないでください。

補足

- 変更できるのは、現在ログインしているユーザーのパスワードのみです。「RC Gate登録者」でログインしている場合は、「RC Gate管理者」のパスワードの変更はできません。「RC Gate管理者」でログインしている場合は、「RC Gate登録者」のパスワード変更ができません。
- 新パスワードは、次回のログインから有効になります。

項目名	項目説明	管理者	登録者
現在のパスワード	現在設定されているパスワードを入力します。	○	○
新規パスワード	新しいパスワードを入力します。	○	○
新規パスワード(確認)	入力ミス等を防ぐために、新しいパスワードを再度入力します。	○	○

○：入力または変更できます。

アクセス許可

カスタマーエンジニアのアクセス許可および、RSセンターからのRC Gateファームウェア更新許可を設定します。［セキュリティ］-［アクセス許可］で表示します。

項目名	項目説明	管理者	登録者
サービスによるアクセス	カスタマーエンジニアが本機へアクセスできないようにするには、「許可しない」を選択します。許可する場合は、「許可する」を選択します。	○	×
センターによるファームウェアの更新	RSセンターからのRC Gateファームウェアの更新を禁止する場合は、「許可しない」を選択します。許可する場合は、「許可する」を選択します。	○	×

×：表示されません。　○：変更できます。

重要

- ［サービスによるアクセス］では、カスタマーエンジニアが点検や修理をする際、本機 にアクセスできるかどうかを設定します。ここで［許可しない］に設定すると、「RC Gate 管理者」が［サービスによるアクセス］を「許可する」に設定するまで、カスタマーエンジニアが本機 にアクセスして点検や修理を行うことができなくなります。そのため、適切なサービスが受けられな い場合があります。なお、メンテナンスは専任のカスタマーエンジニアをご指名ください。
- ［センターによるファームウェアの更新］では、本機ファームウェア（アプリケーションとOS）の最新のバージョンをRSセンターから受信する際、「許可する」を選択してください。工場出荷時のバージョンを継続して使用する場合は、「許可しない」を選択してください。

アクセスログ

本機にアクセスしたユーザーを確認できます。［セキュリティー］-［アクセスログ］で表示します。

項目名	項目説明	管理者	登録者
ログ	アクセス時刻（UTC時刻）、IPアドレス、ユーザー権限、およびログイン結果が表示されます。パスワード入力エラーの場合、ログは赤色で表示され、アクセスが制限されているログインの場合、ログは青色で表示されます。	△	△

△：表示のみです。

こんなときには

エラーメッセージが表示された

メッセージ	発生事由と対処方法
選択を必要とする項目が選択されていません。[戻る] を押して元の画面に戻り、項目を選択してください。	[機器登録ウィザード：検索結果] 画面で、[選択] 欄にチェックを1つも入れずに [次へ] ボタンをクリックしました。[戻る] ボタンで [機器登録ウィザード：検索結果] 画面に戻り、登録する機器の [選択] 欄にチェックを入れてください。
内部エラー システムエラーが発生しました。お手数ですがサービスに連絡し、指示に従ってください。 -（4桁のエラーコード）	システム内部でエラーが発生しました。エラーコードとともに、サービス実施店にご連絡ください。
回線がビジーのため制限時間内に処理が正常に終了しませんでした。しばらくたってからもう一度実行してください。再度エラーが発生した場合には、お手数ですがサービスに連絡し、指示に従ってください。	RSセンターのDB障害やプログラム障害です。しばらく時間を置いても復旧しない場合は、サービス実施店にご連絡ください。
お申込み受け付け番号を確認し、もう一度実行してください。再度エラーが発生した場合には、お手数ですがサービスに連絡し、指示に従ってください。	正しいお申込み受け付け番号を入力しているにもかかわらず、再度エラーが発生した場合は、該当機器がRSセンターに登録されていない、すでに登録されている、依頼区分が異なるなど、RSセンター登録情報との不整合が原因です。サービス実施店にご連絡ください。
不正なアクセスです。ログインしてから画面を表示してください。	Webブラウザーから設定を行う際、Webブラウザーのウィンドウを複数開き、そのうちの一つのウィンドウで設定を行い、別のウィンドウで確定処理を行った場合に、このエラーが発生します（無効なアクセスの場合を除きます）。設定時には。Webブラウザーで複数のウィンドウを開かないようにしてください。
この機能を実行する権限がありません。Remote Communication Gate管理者に設定を確認してください。	5分のあいだに3回ログインに失敗すると、本機へのログインが禁止になります。ログイン禁止状態については、1分後に再度ログインが可能になります。

エラーメッセージに示された障害が継続する場合

エラーメッセージに示された障害が継続する場合は、サービス実施店にお問い合わせください。

事業所の移転、管理対象機器の移動等

次の場合は、事前にRSセンター側DBへの登録手続きが必要です。サービス実施店までお問い合わせください。

- 事業所の移転（本機の移動）
- 管理対象機器の移動
- 管理対象機器の新設
- 管理対象機器の削除

本機を返却する場合

運用を終了するときは、お客様の情報を守るために本機を回収しますので、サービス実施店にご連絡ください。

エラーコード

メッセージ	原因	対処方法と参照先
-1703	すでにRC Gate登録は完了しています。	トップ画面に戻り、登録状況を確認してください。
-2202	シリアル回線の異常です。	機器との接続が外れていないか、断線していないかを確認してください。
-2303	RC Gate（以下、本機）がRSセンターへ通信できません。内部処理でエラーが発生しました。	まず、ＬＡＮケーブルが正しく接続されているか確認してください。次に電源をきってから、再度電源を入れてください。それでもエラーが発生する場合は、サービス実施店に連絡してください。
-2320	管理機器台数を超えて登録しようとしています。本機に１００台以上登録しようとしました。	登録する機器の台数を100台未満に減らし、登録ウィザードをやり直してください。
-2323	機器登録時機器を１台も選択しないで登録操作をしました。	登録する機器を1台以上選択してください。
-2324	機器登録時機器を１台も選択しないで登録操作をしました。	依頼書情報照会をする機器に、依頼書番号を設定してください。
-2325	機器登録時機器を１台も選択しないで登録操作をしました。	登録する機器を1台以上選択してください。
-2340	通信が接続していない状態でリクエストをしました。	本機と機器の接続を確認してください。
-2341	ブラウザの設定で、クッキーの使用が許可されていません。	お使いのPCでクッキーの設定を「許可する」にしてください。
-2343	通信の接続がきれています。または、ほかのユーザがログインしています。	しばらくしてから再度実行してください。それでも修復できない場合は、サービス実施店に連絡してください。

メッセージ	原因	対処方法と参照先
-2385	RSセンター側のエラーです。	電話番号を設定し直してから、再度実行してください。それでもエラーが発生する場合は、サービス実施店に連絡してください。
-2391	RSセンター側のエラー（機器の二重登録）です。すでに登録されている機器を再度登録しようとしています。	「@Remote設定依頼書」の「お申込み受け付け番号」と「RC-Gateの機種機番」を確認してください。それでもエラーが発生する場合は、サービス実施店に連絡してください。
-2398	RSセンター側のエラー（依頼書番号のフォーマット違い）です。登録時依頼書番号のフォーマットが異なっています。	ＬＡＮ（SNMP）接続機器の受付番号を確認してください。それでもエラーが発生する場合は、サービス実施店に連絡してください。
-2603	接続に失敗しました。	RSセンターとの接続設定を確認してください。または物理的な接続経路を確認し、再度実行してください。
-2604	RSセンターとの通信（レスポンスの読み込み）に失敗しました。	RSセンターとの接続設定を確認してください。または物理的な接続経路を確認し、再度実行してください。
-2605	RSセンターとの通信（リクエストの書き込み）に失敗しました。	RSセンターとの接続設定を確認してください。または物理的な接続経路を確認し、再度実行してください。
-2620	インターネット通信時に、プロキシ認証に失敗しました。	プロキシのＩＰ、ポート番号、ＩＤ、パスワードを再確認し、再入力してください。
-2670	PPPLINKの確立に失敗しました。ダイヤルアップ時に、ＰＰＰ通信で異常が起こりました。	ダイヤルアップの設定を確認し、再度実行してください。
-2671	PPP 認証に失敗しました。ダイヤルアップ時に、ＰＰＰ認証でつながりませんでした。	ダイヤルアップの設定を確認し、再度実行してください。
-5309	メール送信を失敗しました。	メールサーバーの設定を確認してください。
-5310	すでにほかの通信処理がされています。	しばらくしてから再度実行してください。

初期値一覧

項目	初期値	補足
LAN種別	有線	
DHCP	無効	
サブネットマスク	255.255.255.0	各ネットワーク設定画面
イーサネット速度	自動選択	
プロキシサーバー	無効	
プロキシポート番号	8080	
RC Gateメールアドレス（送信者用）	rc_gate	
メール再送信回数	3回	
メール再送信間隔時間	15秒	
SMTPサーバーポート番号	25	
SMTP_AUTH	無効	
POP before SMTP	無効	
POPサーバーポート番号	110	
通信速度	自動選択	無線LANオプション利用時
WEP（暗号化）	無効	無線LANオプション利用時
接続回線	RC Gate・ファクス共有回線	ダイヤルアップ利用時
ダイヤル/プッシュ選択	プッシュ回線	ダイヤルアップ利用時
サービスによるアクセス	許可する	
センターによるファームウェアの更新	許可する	
IPアドレス検索範囲	0.0.0.0-0.0.0.0	機器登録ウィザード利用時
SNMPコミュニティ名	public	機器登録ウィザード利用時
表示件数	10件	機器登録ウィザード利用時

補足

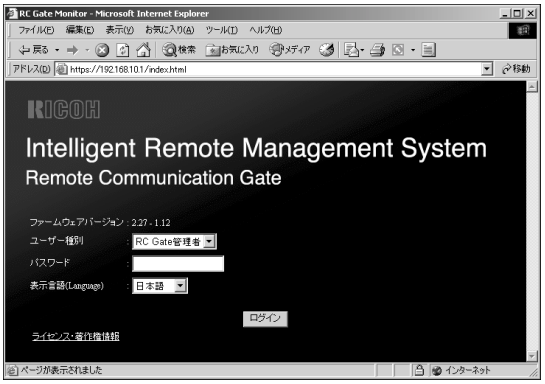
❒ 表示言語やタイムゾーンの初期値は、利用国により異なります。

本機に搭載されているソフトウェアの著作権などに関する情報

本機に搭載されているソフトウェアは、以下を含みます。

- GPL/LGPL適用ソフトウェア
- ash
- OpenSSL toolkit
- zlib
- Apache
- Expat
- Sablotron
- net-snmp
- ダイジェスト認証関連ソフトウェア
- mod_ssl

これらのソフトウェアのライセンス・著作権等に関する情報は、RC Gateモニターのログイン画面から［ライセンス・著作権情報］のリンクをクリックすることでご覧になれます。



7

仕様

モデル名	Remote Communication Gate Type N	Remote Communication Gate Type L [*1]
形式	ボックスタイプ	
インターフェース	Ethernetインターフェース ×2（10BASE-Tまたは100BASE-TX） OA I/F ×1	
	—	モジュラー端子×2（LINE/FAX）
モデム機能	—	ITU-T V.34（max. 33,600bps）
オプション	無線LANカードセット （PCMCIA TypeⅡインターフェース ×2、IEEE 802.11bカード ×1）	—
表示部	LED ×3	
主なサービス機能	カウンター自動検針 遠隔診断保守（リモート点検/SC、CC、AC、MC通報とコール時対応） 使用枚数等情報提供（ご使用状況報告） トナーエンド情報提供 ファームウェアのリモート書き換え	
対応プロトコル	TCP/IP、SNMP、HTTP、SOAP、SMTP、DHCP	
管理対象機器	当サービス対応のデジタル複合機、コピー機、プリンター	
最大接続台数	100台（RS-485接続最大5台を含む）	
使用環境	10～32℃、15～80％RH	
電源	AC100V±10％、50/60Hz±3Hz	
消費電力	20W以下	
直流抵抗	—	350Ω
大きさ	幅203mm/奥行き145mm/高さ31.5mm	
重量	1kg以下	

[*1] 本装置は、電話回線や地域などの条件によっては、ご使用になれない場合があります。

電波障害について

他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

- テレビやラジオなどからできるだけ離す。
- テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
- コンセントを別にする。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

索引

アルファベット索引

Comm.Error **12**

FAX端子 **14**

IPアドレスの変更 **22**

LAN1ポート **13, 14**

LAN2ポート **13, 14**

LINE端子 **14**

OA I/F **13, 14**

Power **12**

RC Gate管理者 **36**

RC Gate・機器個別設定 **37, 59**
- 画面構成と操作方法 **40**

RC Gate再起動 **77**

RC Gateシャットダウン **78**

RC Gate専用回線 **21**

RC Gate登録ウィザード **37, 43**

RC Gate登録者 **36**

RC Gateの登録
- ウィザードの操作手順 **44**
- ウィザードの流れ **43**

RC Gate・ファクス共有回線 **20**

RC Gateモニター
- 起動 **34**
- 終了 **38**

System Error **12**

Webブラウザー **33**

あ行

アクセス許可 **85**

アクセス権限とメニュー画面 **36**

アクセスログ **86**

一覧表形式画面の操作方法 **42**

移転 **88**

インジケーター
- LANポート **14**
- 正面 **12**

ウィザード
- RC Gate登録ウィザード **43**
- 機器登録ウィザード **53**

ウィザード画面の操作方法
- 一覧表形式画面 **42**
- 画面の構成 **39**

エラーメッセージ **87**

か行

各部の名称 **12**

管理対象機器の登録 **53**

機器確認依頼コール **80**

機器共通管理設定 **71**

機器詳細 **74**

機器登録ウィザード **37, 53**

機器の登録
- ウィザードの操作手順 **54**
- ウィザードの流れ **53**

機器ファームウェア更新 **76**

基本設定 **61**

コマンドボタン **39, 41**

さ行

サービスコール **82**
再起動 **77**
システム概要 **9**
システム状態 **83**
シャットダウン **78**
仕様 **92**
障害情報 **82**
常時接続 **69**
常時接続方式 **9**
新設 **88**
接続
　電源コード **17**
　ネットワークケーブル **30**
　モジュラーコード **20**
接続設定詳細 **69**
設置環境 **15**

た行

対象OS **33**
ダイヤルアップ **70**
ダイヤルアップ方式 **11**
縦置き **31**
著作権情報 **91**
通信テストコール **79**
通信ログ **81**
テストコール
　機器確認依頼コール **80**
　通信テストコール **79**
電源コードの接続 **17**
電源コネクター **13, 14**
電話回線の接続 **20**
動作環境 **33**
登録機器一覧 **73**

な行

ねじ穴 **13, 14**
ネットワークケーブルの接続 **30**
ネットワーク設定 **22, 63**

は行

パスワード **36**
パスワード変更 **84**
ファクス共有回線 **20**
ヘッダーエリア **39, 40**

ま行

無線LANカード用スロット **13**
メール設定 **66**
メニューエリア **40**
モジュラーコードの接続 **20**

や行

横置き **31**

ら行

ライセンス・著作権情報 **91**

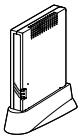
機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり

1. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

無断転載禁止 © 2003-2006 Ricoh Co., Ltd.

株式会社リコー
東京都中央区銀座8-13-1 リコービル 〒104-8222
http://www.ricoh.co.jp/



Remote Communication Gate Type N / L 使用説明書

お問い合わせ先

故障・保守サービスのお問い合わせは最寄りのサービス実施店にご連絡ください。転居の際は、販売店またはサービス実施店にご連絡ください。転居先の最寄りの販売店、サービス実施店をご紹介いたします。

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

JA　2006年1月　A768-8558